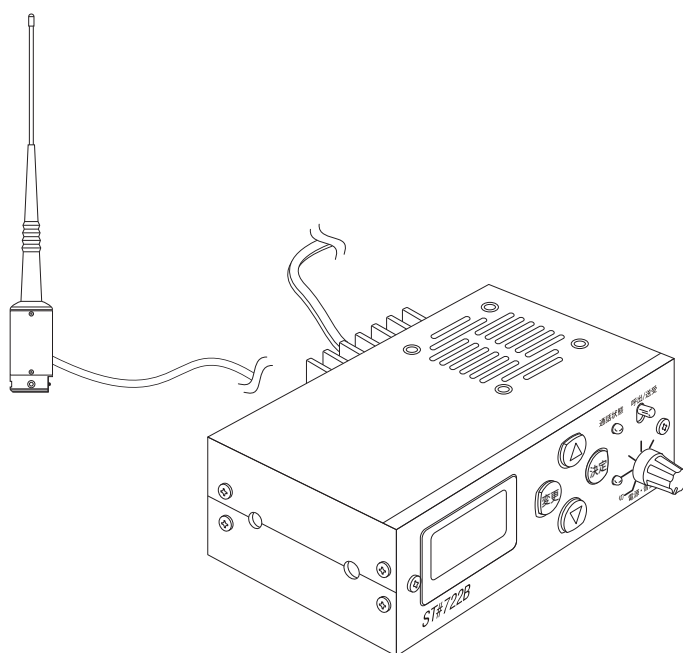




特定小電力無線機

ST#722BA ST#722BC

詳細取扱説明書



目次

| | | | |
|---|----|---|----|
| 目次..... | 2 | 応用操作 | 42 |
| 安全上のご注意 | 3 | モード・設定の一覧..... | 42 |
| 絵表示について | 3 | モード・設定を変える | 43 |
| 特長 | 8 | チャンネルの変更に合わせてトーンを自動的に 変更できるようにする (トーン追従モード) | 45 |
| 本体構成部品 | 9 | 同時通話の会話を聞けるようにする (エコー 1：N モード) | 46 |
| 本体について | 10 | 特殊トーンを使って通話する (TX・RXトーン) | 49 |
| 各部の名称と説明 | 10 | マイクの感度を変更する | 51 |
| 表示部の名称と説明..... | 13 | キーロックがかかるまでの時間を変更する..... | 52 |
| お使いになる前の準備..... | 15 | マイクとスピーカの動作をテストする..... | 53 |
| 面ファスナーの使い方 | 15 | 送信の開始手順を変更する..... | 54 |
| 本機をお使いになる前に - 1 | 16 | 全ての設定を元に戻す | 56 |
| 本機をお使いになる前に - 2 | 18 | その他の使い方 | 57 |
| 背面の接続図..... | 19 | 工場出荷状態一覧..... | 58 |
| オプション品の紹介 | 20 | その他..... | 59 |
| 無線機の通話方法について | 21 | 仕様 | 59 |
| 同時通話について..... | 21 | 外観寸法図 | 60 |
| 無線機の通話モードについて | 22 | 故障かな?と思ったら..... | 62 |
| マニュアルモードについて..... | 22 | 保証・アフターサービス..... | 64 |
| MCA モードについて | 23 | | |
| マニュアルモードでの通話..... | 24 | | |
| 電源の入切 | 24 | | |
| 音量を調節する..... | 25 | | |
| K/S の設定を変更する (K/S 設定モード) | 26 | | |
| チャンネルを合わせる | 28 | | |
| マニュアルモードで通話する | 29 | | |
| 誤ってボタンを押しても変更できないようにする (キーロック機能) | 31 | | |
| モード・設定をマニュアルモードに変える | 32 | | |
| MCA モードでの通話..... | 33 | | |
| 電源の入切 | 33 | | |
| 音量を調節する..... | 34 | | |
| MCA モードを設定する | 35 | | |
| アイテ番号を設定する..... | 37 | | |
| MCA モードで通話する..... | 38 | | |
| MCA モードの一斉呼び出し..... | 39 | | |
| 誤ってボタンを押しても変更できないようにする (キーロック機能) | 41 | | |

このたびは、特定小電力無線機 ST#722BA / 特定小電力無線機操作ユニット ST#722BC をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

お買い上げいただきました製品に、万一ご不審な点、お気付きの点などがありましたら、なるべくお早めにお買い上げいただきました販売店または弊社営業所へお問い合わせください。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「詳細取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは保証書と一緒にいつでも取り出せる場所に保管してください。
- ご購入日は保証書に記載されたお買い上げ年月から起算します。お買い上げ年月が記入されていなければ工場出荷年月からとなります。

絵表示について

この「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。下記の項目をよくご理解いただき、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。

左図の場合は、一般的な注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。

左図の場合は、一般的な禁止行為が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。

左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

⚠ 警告 (特定小電力無線機 ST#722BA について)

- 当社指定の特定小電力無線機操作ユニット以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 本機を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 万一、本機の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店または弊社営業所にお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、異物が本機の内部に入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店または弊社営業所にお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、本機を落したり、破損した場合は、まず機器本体の電源を切って販売店または弊社営業所にお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- 濡れた手で本機や本機のケーブルを取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。



- 本機は IPX7 相当の防水構造になっていますが、長時間本機を水で濡らしたり、水につけたり、水道やシャワーなどの水流を長時間直接かけないでください。また、温水や界面活性剤が入った水の中に浸けないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 本機の上や近くに水などの入った容器、または小さな金属物を置かないでください。水や金属物などがこぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 本機の接続端子に水滴がついたまま特定小電力無線機操作ユニットと接続しないでください。火災・故障の原因となります。



- 本機の接続端子はショートさせないでください。故障や感電の原因となります。



注意 (特定小電力無線機 ST#722BA について)

- 本機を高所に取り付ける際には、労働安全衛生法に従って、正しく設置してください。



- 本機の分解は、電波法で禁止されていますので絶対に行わないでください。改造した機器を使用した場合、電波法により罰せられますのでご注意ください。
- 本機は、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則(証明規則)第2条8号「工事設計の認証(認証)を受けた無線局」です。本機に貼られている証明ラベルは絶対にはがさないでください。はがすと電波法上無線機とは認められなくなります。
- 本機は、国内専用です。国外では使用できませんのでご注意ください。
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両、病院などの使用を禁止された場所では、本機の電源を切ってください。電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあります。
- お手入れの際は安全のため、特定小電力無線機操作ユニットの電源を切ってから特定小電力無線機操作ユニットのケーブルを取り外してください。また、アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤を含んだ布で拭かないでください。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 乳幼児の手の届かないところで、使用・保管してください。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。



⚠ 警告 (特定小電力無線機操作ユニット ST#722BC について)

- 自動車などの運転中は本機を操作しないでください。安全運転の妨げとなり、事故の原因となります。



- 当社指定の電源電圧 (DC 12V ~ 24V) 以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 運転に支障をきたす場所には、絶対に取り付けしないでください。運転に支障をきたす場所 (ハンドル、シフトレバー、ブレーキペダル、その他操作レバー付近など) への取り付けは、交通事故やけがの原因になります。



- エアバックの動作を妨げる場所には、絶対に取り付けしないでください。エアバックの動作を妨げる場所への取り付けは、緊急時のエアバックの不動作やエアバックが膨らむ際に本機が外れて交通事故やけがの原因になります。

- 本機を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 万一、本機の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店または弊社営業所にお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。

- 万一、異物が本機の内部に入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店または弊社営業所にお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。

- 万一、本機を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源を切って販売店または弊社営業所にお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- 濡れた手で本機の各接続端子の取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。



- 本機を水で濡らしたり、水につけたり、水道やシャワーなどの水流を直接かけないでください。また、水の中には浸けないでください。火災・感電・故障の原因となります。

- 本機の上や近くに水などの入った容器、または小さな金属物を置かないでください。水や金属物などがこぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電・故障の原因となります。



- 本機の各接続端子に水滴がついたまま各機器を接続しないでください。火災・故障の原因となります。

- 本機の各接続端子はショートさせないでください。故障や感電の原因となります。



⚠ 注意 (特定小電力無線機操作ユニット ST#722BC について)

- 本機は、道路交通法および関連する法令・規定類に抵触しないよう正しくお取り付けください。
- ETC のアンテナ部分や他の機器のアンテナやセンサー部分を隠すような取り付け方はしないでください。それらの機器が正常に働かない場合があります。
- 本機は、国内専用です。国外では使用できませんのでご注意ください。
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両、病院などの、使用を禁止された場所では、本機の電源を切ってください。電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあります。
- お手入れの際は安全のため電源を切ってください。また、アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤を含んだ布で拭かないでください。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 乳幼児の手の届かないところで、使用・保管してください。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。



特長

- 特定小電力無線機(ST#722BA)は、電波法施行規則第6条「特定小電力無線局」に該当する400MHz帯同時通話型携帯無線機で、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則(証明規則)第2条8号「工事設計の認証(認証)を受けた無線局」です。
免許および申請手続きは一切不要ですので、お買い上げいただいたその日からご使用になれます。
- 同時通話型携帯無線機なので、電話のように相手機の声聞きながら通話ができます。
- 通話モードにはマニュアルモードとMCAモードがあります。
マニュアルモードでは、相手機とチャンネルを合わせて通話します。
MCAモードでは、自機、相手機各々にあらかじめ設定されているジブン番号を使って、相手機を呼び出して通話します。
- 特定小電力無線機(ST#722BA)は、IPX7相当の防水構造になっていますので、雨の中でもご使用いただけます。
※ IPX7の保証期間はご購入より1年です。
各製品の取扱説明書をご覧ください。
- 電波の強度を4段階(圏外表示含む)のレベルで表示します。
- 特定小電力無線機操作ユニット(ST#722BC)の表示部はバックライト機能付きです。
- アンテナの位置をノイズ源から遠ざけて設置、運用できます。
- マニュアルモードの他に、お使いになるシーンに合わせて色々なモードが用意されています。

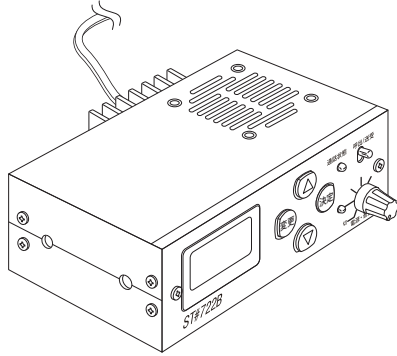
本体構成

はじめに、下記の付属品が揃っているかご確認ください。

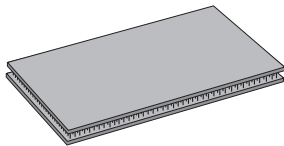
万が一不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店または弊社営業所にお問い合わせください。

【ST#722BC (特定小電力無線機操作ユニット)】

特定小電力無線機操作ユニット (ST#722BC) 1



面ファスナー (PP10236) 1



電源ケーブル 2.5m (PP10242) 1

リモートケーブル 10m (ST#722B-10S) 1

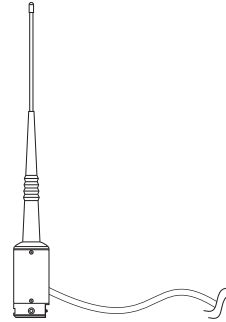
簡易取扱説明書 1



保証書 1

【ST#722BA (特定小電力無線機)】

特定小電力無線機 (ST#722BA) 1



簡易取扱説明書 1



保証書 1

【共通品】

詳細取扱説明書 1

(CD-ROM : Adobe Reader (アドビリーダ[®])形式
で詳細取扱説明書を読むことができます)



※ Adobe Reader5.0 以降
で読むことができます。

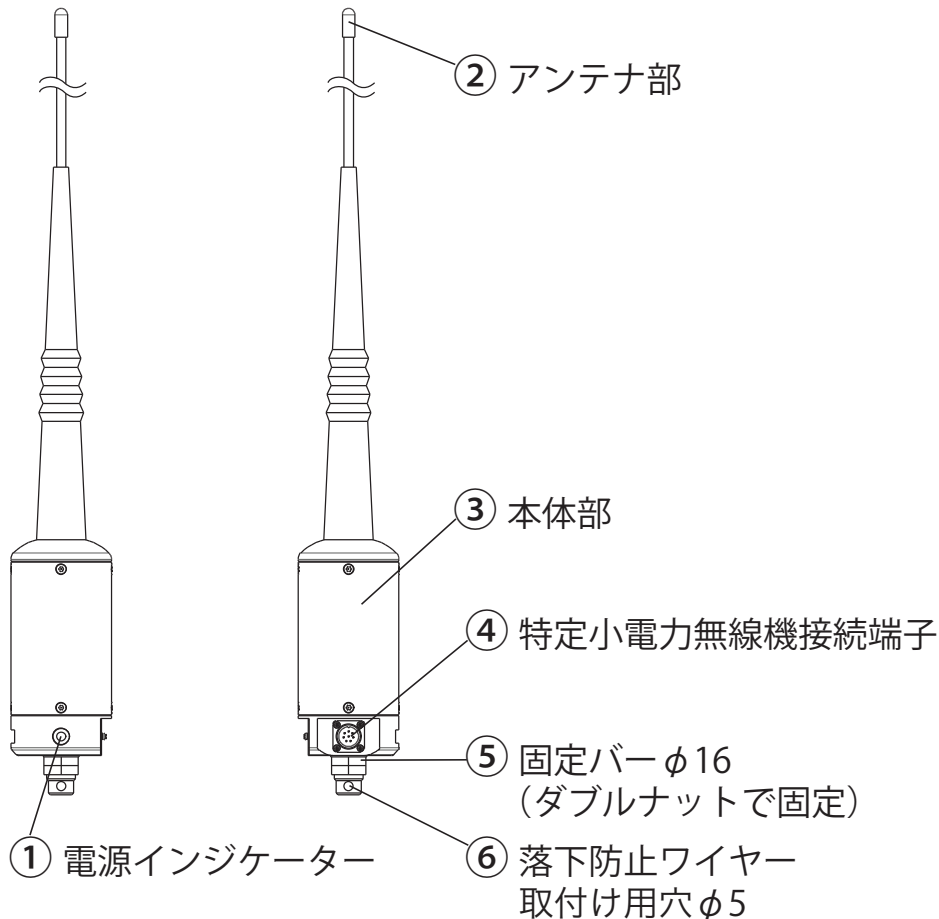
※アンテナ基台は別売です。

※操作ユニット (ST#722BC) と無線ユニット
(ST#722BA) を接続するケーブルは別売です。

本体について

各部の名称と説明

特定小電力無線機 ST#722BA



① 電源インジケータ

- 特定小電力無線機操作ユニットと接続されているときに、特定小電力無線機操作ユニットに電源が入ると緑色の点灯になります。

② アンテナ部

- アンテナは、着脱できない構造になっています。

③ 本体部

④ 特定小電力無線機接続端子

- この端子に特定小電力無線機リモートケーブルを接続します。

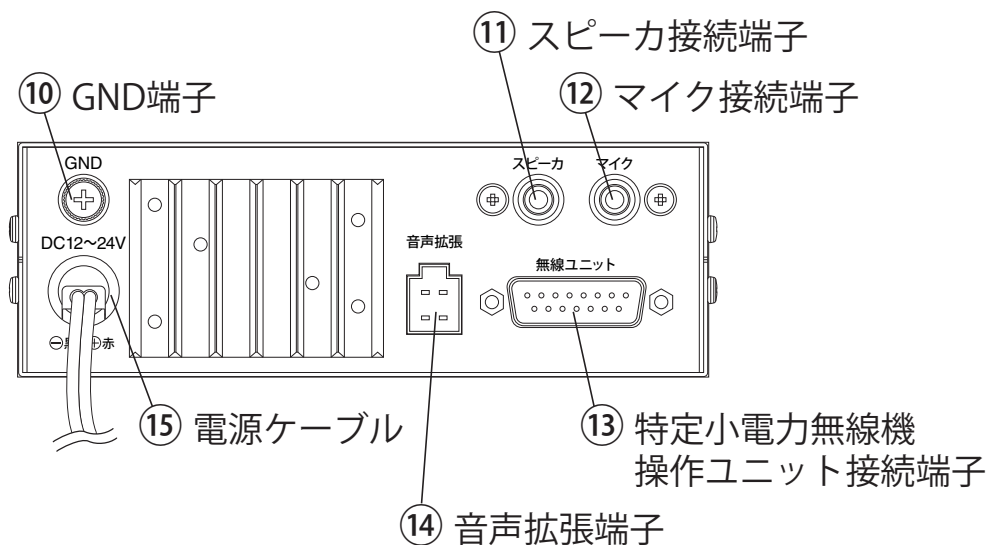
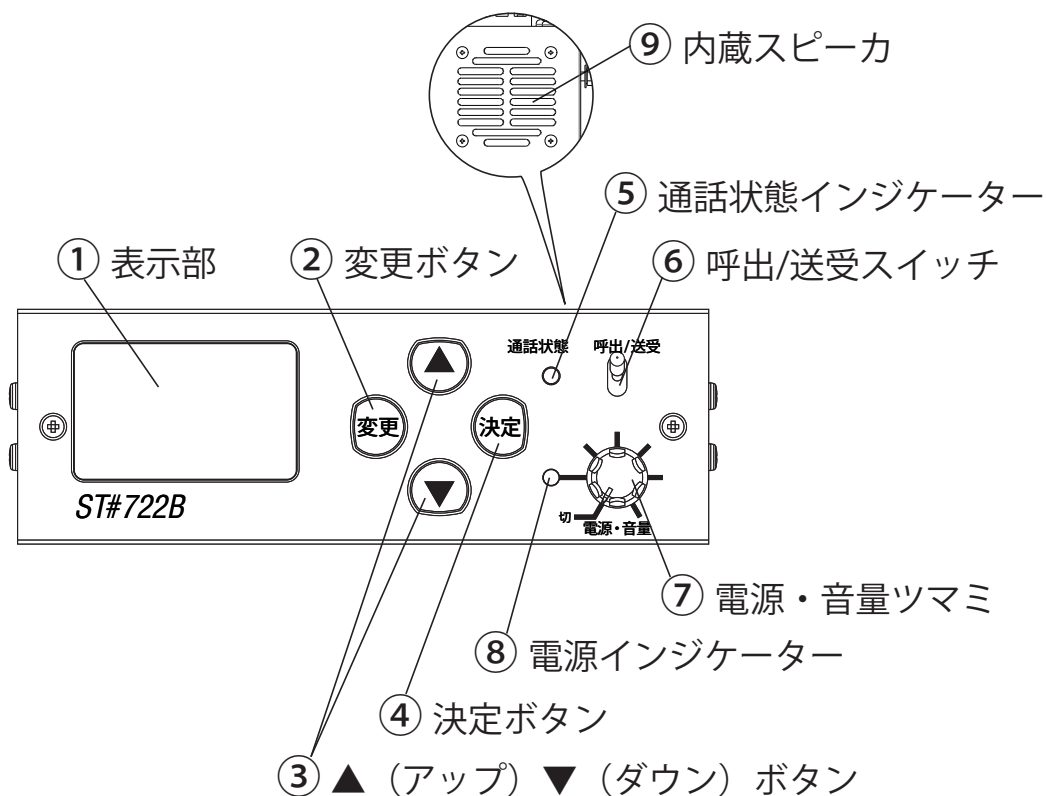
⑤ 固定バー φ16

- この部分をアンテナ基台に通して、付属のナットで固定します。

⑥ 落下防止ワイヤー取付け用穴 φ5

- この穴に落下防止用のワイヤーを通してください。
(落下防止ワイヤーは添付していませんので、お客様ご自身でご用意ください。)

特定小電力無線機操作ユニット ST#722BC



① 表示部

- チャンネルや電波の強さが表示されます。

② 変更ボタン

- このボタンを押して、チャンネル、モード・設定を変更できる状態にします。

③ ▲ (アップ) ▼ (ダウン) ボタン

- このボタンを押して、チャンネル、モード・設定を変更します。

④ 決定ボタン

- このボタンを押して、変更したチャンネル、モード・設定を決定します。

⑤ 通話状態インジケータ

| | |
|------|------------------|
| 赤色点灯 | 通話中(送受信中) |
| 緑色点灯 | 受信(受信のみ) |
| 橙色点灯 | 呼び出し中(MCAモード時のみ) |

⑥ 呼出 / 送受スイッチ

- このスイッチを押し下げると、連続して通話ができる状態になります。もう一度押し下げると、受信状態に戻ります。

⑦ 電源・音量ツマミ

- このツマミを時計方向に回すと電源が入ります。さらに回すと音量が大きくなります。
- このツマミを反時計方向に回すと音量が小さくなります。さらに反時計方向に回し切ると、電源が切れます。

⑧ 電源インジケータ

- 電源が入ると緑色の点灯になります。

⑨ 内蔵スピーカ

- ここから受信した音声が出ます。
ただし、スピーカ端子に外部スピーカが接続されているときは、この内蔵スピーカから音声は出ません。

⑩ GND 端子

- この端子に GND (アース) 線を接続します。

⑪ スピーカ接続端子

- この端子にスピーカを接続します。
ただし、この端子に外部スピーカが接続されているときは、内蔵スピーカから音声は出ません。

⑫ マイク接続端子

- この端子にマイク(ST#7MIC-02)を接続します。

⑬ 特定小電力無線機操作ユニット接続端子

- この端子に特定小電力無線機リモートケーブル(ST#722B-10S)を接続します。

⑭ 音声拡張端子

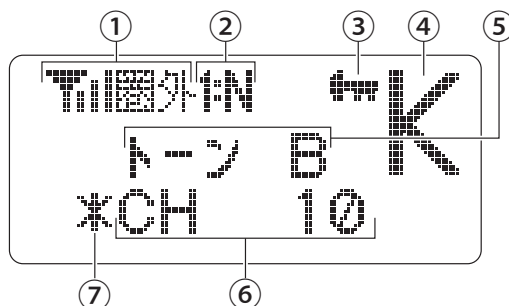
- この端子に当社製の「音声端子」を装備した無線機を接続できます。

⑮ 電源ケーブル

- このケーブルのギボシ端子とシガーライタープラグのギボシ端子を接続し、DC (直流) 12 ~ 24V のシガーライターソケットに接続します。

表示部の名称と説明

マニュアルモード



① アンテナ表示と受信強度

- アンテナのアイコンと「圏外」の表示により、受信している電波の強さを表示します。「圏外」が表示されているときは電波が受信できていません。

アンテナ強度早見表

| 表示 | 状態 | |
|----|-------------|----------------------|
| | 電波は強い状態です | 問題なく通話できます |
| | 電波はやや強い状態です | 若干ノイズが有ります |
| | 電波はやや弱い状態です | ノイズが多く通話が途切れることがあります |
| | 電波は弱い状態です | 通話が出来ません |

② エコー 1 : N

- エコー 1 : N モードが設定されているときに、この表示がでます。

③ キーロック

- キーロックが設定されています。この表示がでているときは、チャンネルやモード・設定を変更することができません。

④ K / S 設定

- お使いの無線機が K 設定か S 設定かを表示します。本機は K 設定と S 設定をペアとして使用します。K 設定同士または S 設定同士では通話はできません。

⑤ 特殊トーン

- TX・RX トーンモードが設定されているときに、この表示がでます。設定されていないときは表示されません。混信を防ぎたいときにお使いください。

⑥ チャンネル

- 設定されているチャンネルを表示します。

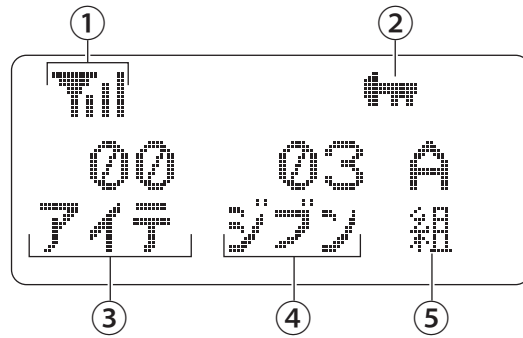
⑦ トーン追従

- トーン追従が設定されているときに、この表示がでます。チャンネルを変えるとあらかじめ設定されているトーンに自動的に設定されます。

アドバイス

- 特殊トーンとトーン追従は、同時には設定できませんので、同時に表示されることはありません。

MCA モード



① アンテナ表示と受信強度

- アンテナのアイコン表示により、受信している電波の強さを表示します。

アンテナ強度早見表

| 表示 | 状態 | |
|----|-------------|----------------------|
| | 電波は強い状態です | 問題なく通話できます |
| | 電波はやや強い状態です | 若干ノイズが有ります |
| | 電波はやや弱い状態です | ノイズが多く通話が途切れることがあります |
| | 電波は弱い状態です | 通話が出来ません |
| | 待ち受け状態です | 送受信待機状態です |

② キーロック

- キーロックが設定されています。チャンネルやモード・設定を変更することはできません。

③ アイテ番号

- 呼び出したい相手に設定されている相手のジブン番号です。
「00」に設定すると一斉呼び出しとなります。

④ ジブン番号

- あらかじめ自機に設定しているジブン番号です。

⑤ 組

- あらかじめ自機に設定している組番号です。この組番号が相手機と合っていないと通話できません。

アドバイス

- MCA モードではエコー 1 : N、K / S の設定がないため、エコー 1 : N、K / S 設定の表示はできません。

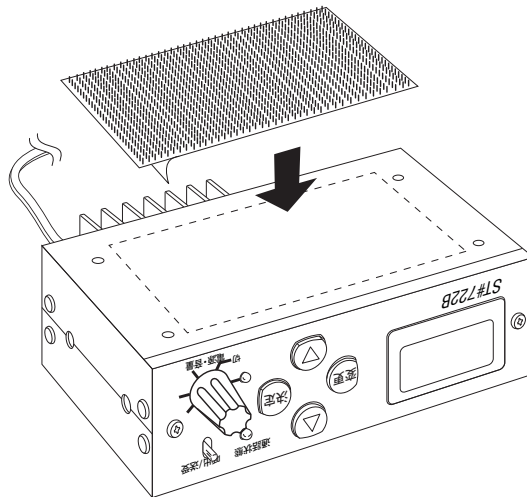
お使いになる前の準備

面ファスナーの使い方

アドバイス

- 面ファスナーを貼付ける前には、貼り付ける面の汚れやホコリをよく拭き取っておいてください。

- ① 設置場所の汚れを拭き取る
- ② ループ面を設置場所に貼り付ける
- ③ 下図のように無線機底面にフック面を貼り付ける
(ネジ穴をふさがないように注意してください。)
- ④ 貼り付け後、全面をしっかり押し付ける



アドバイス

次の場所には面ファスナーを使用して設置しないでください。

- 周囲の窓・壁面にぶつかる狭い場所
- 面ファスナーが密着しないような曲面
- 不安定な場所
- 傾いた場所
- 垂直な場所

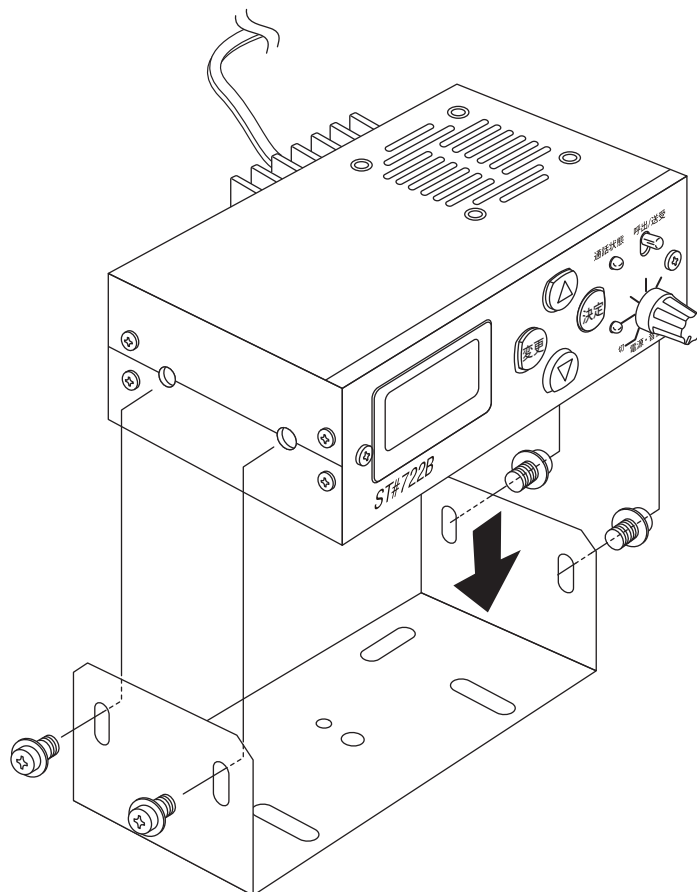
本機をお使いになる前に－ 1

特定小電力無線機操作ユニット (ST#722BC) の固定の仕方

各種取付方法がありますが、面ファスナーを使用する場合は(P.15)をご覧ください。

専用ブラケット(オプション：PP10246)で固定する場合は、しっかりと先にブラケットを固定して、次に無線機を固定してください。

- 1 ブラケットを固定する
- 2 特定小電力無線機操作ユニット (ST#722BC) をブラケットに固定する

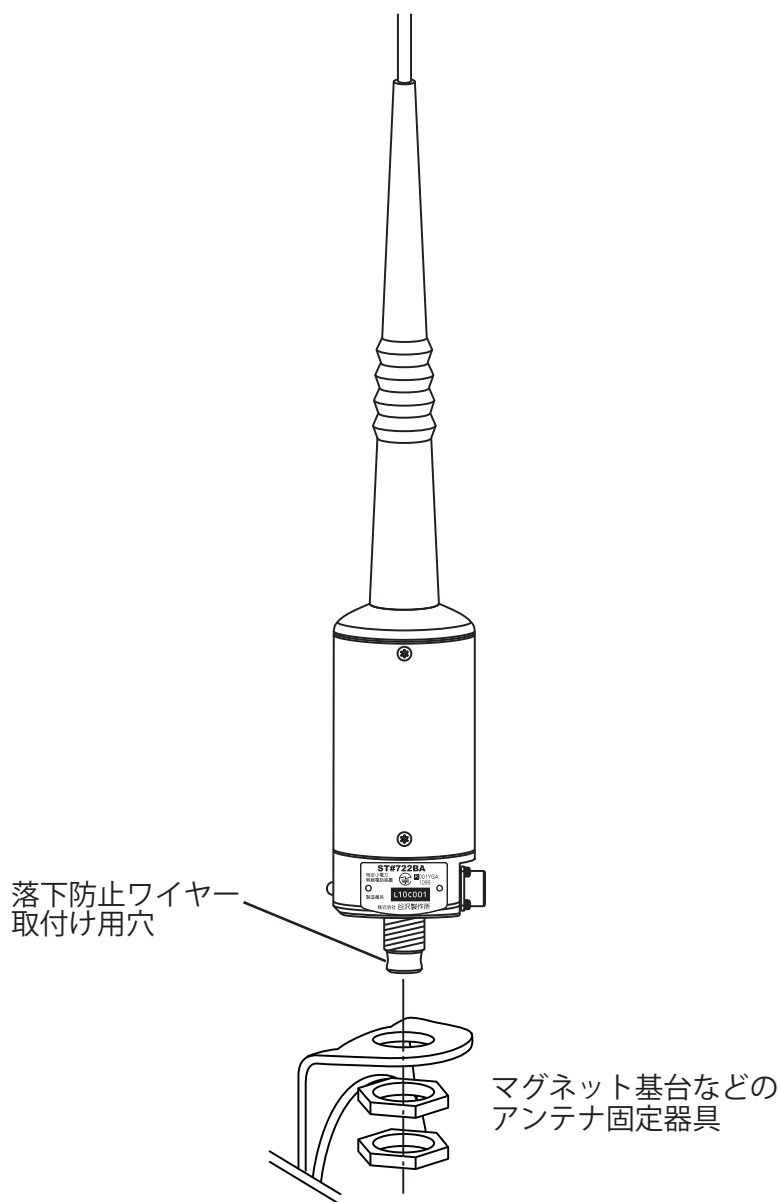


アドバイス

- ブラケットへ固定するネジはブラケットと同梱されています。
- 操作ユニット (ST#722BC) をブラケットに固定するネジは専用ネジをお使いください。
- ブラケットを取付面に固定するネジはお客様にてご用意ください。

特定小電力無線機 (ST#722BA) の固定の仕方

- 1 固定バー部分をアンテナ基台に通す
- 2 付属ナットを使って、アンテナ基台と固定する



- 3 基台を取付場所に固定する
- 4 落下防止ワイヤー取付け用穴にワイヤーを通す

アドバイス

- 特定小電力無線機と基台の固定には、必ず付属のナットを2個使ってください。他のナットを使うと特定小電力無線機が十分に固定されず、落下する原因になります。また、ナットを1個しか使わない場合も特定小電力無線機が十分に固定されず、落下する原因になります。
- 落下防止のため、落下防止ワイヤー取付け用穴にワイヤーを通して、ワイヤーをしっかりと固定してください。
- アンテナ基台を取付場所に固定する前には、アンテナ基台の取扱説明書をよく読んでください。
- 取付場所が高所になる場合は、労働安全衛生法に従った準備を整えてから行ってください。

本機をお使いになる前に－ 2

特定小電力無線機操作ユニット (ST#722BC) の機器の接続の仕方

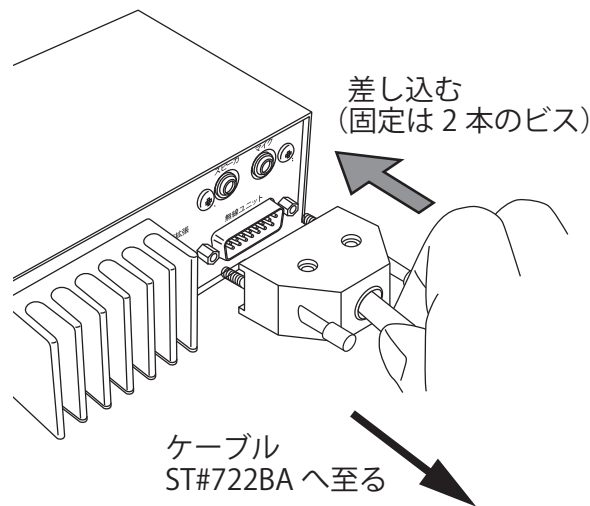
特定小電力無線機 (ST#722BA) は特定小電力無線機操作ユニット (ST#722BC) で操作されるアンテナユニットです。

専用ケーブルは特定小電力無線機操作ユニット (ST#722BC) と接続することができ、その距離は最長で 200m 程度まで延ばせます。

(標準は 10m のケーブルになります。延長したい場合は特注で承りますので最寄りの弊社営業所へご相談ください。)

① 特定小電力無線機操作ユニット (ST#722BC) とケーブルを接続する

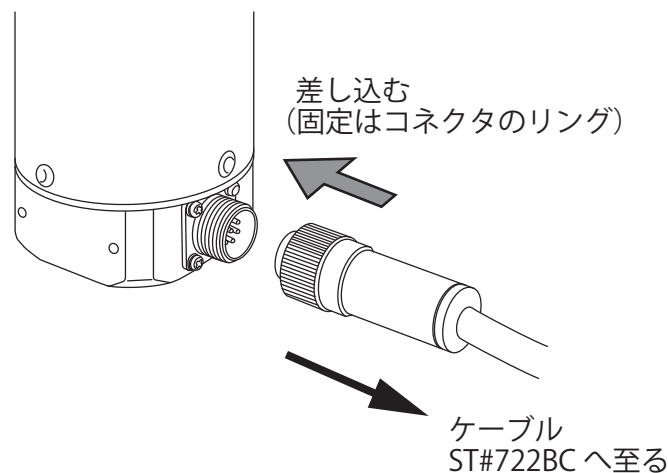
- リモートケーブル片端の (ST#722B-10S) の角型 15pin コネクタ (台形の差し込み口) を特定小電力無線機操作ユニット (ST#722BC) 側に接続します。
- コネクタの両方のネジを締め込んで、コネクタを固定してください。



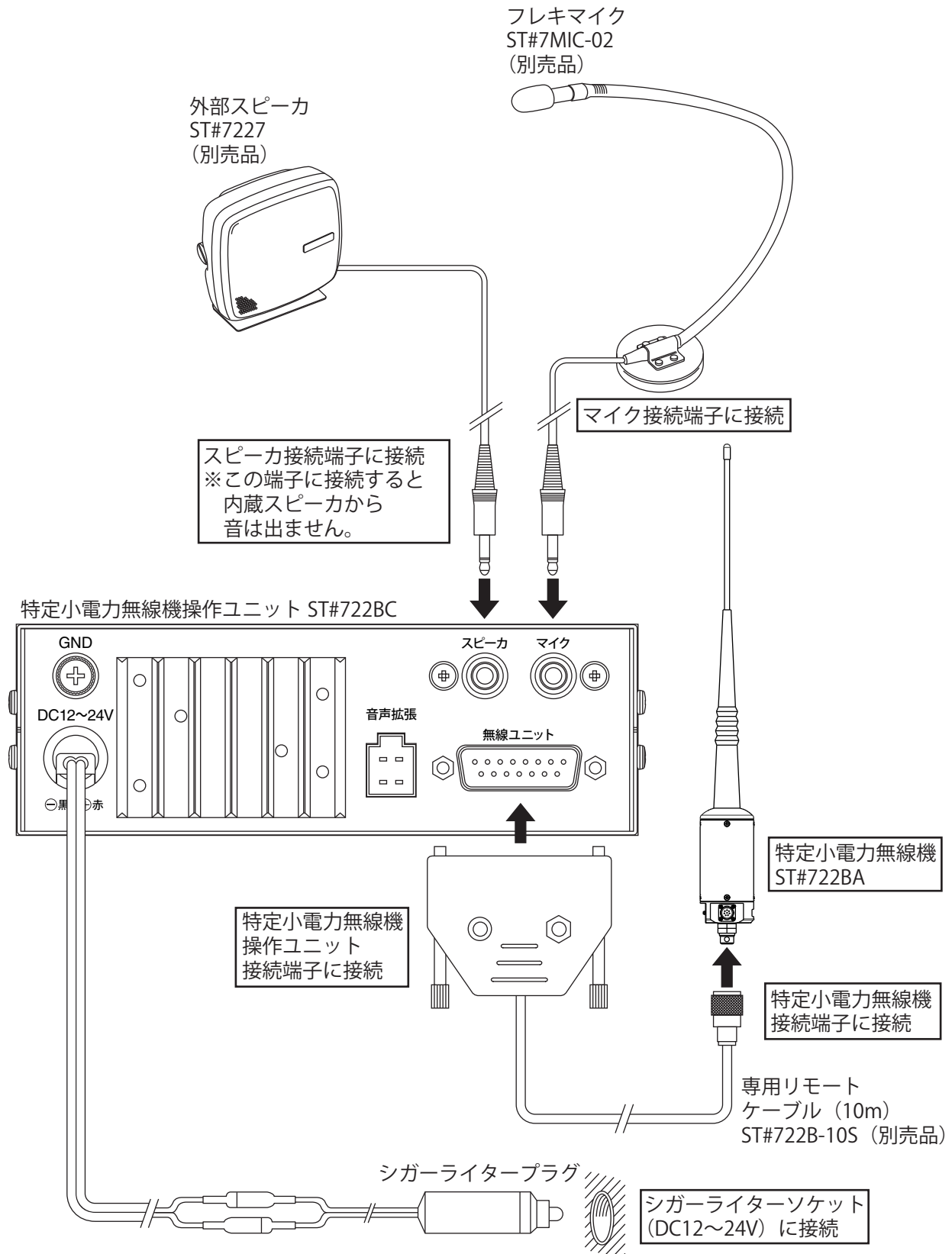
② 特定小電力無線機 (ST#722BA) とケーブルを接続する

- リモートケーブル反対側のコネクタの丸形コネクタ (8pin) を特定小電力無線機 (ST#722BA) 本体の下のコネクタに差し込んで固定します。
- リングを増し締めして固定します。

③ 特定小電力無線機 (ST#722BA) がぐらついたり、落下しないようにしっかりと固定する



背面の接続図



アドバイス

- 電源ヒューズには 5A の標準ガラス管ヒューズ (30mm 長さ) を使用しています。万一切れてしまった場合には、お近くの営業所へお問い合わせください。また、ヒューズ以外のものを入れるのは危険ですのでやめてください。

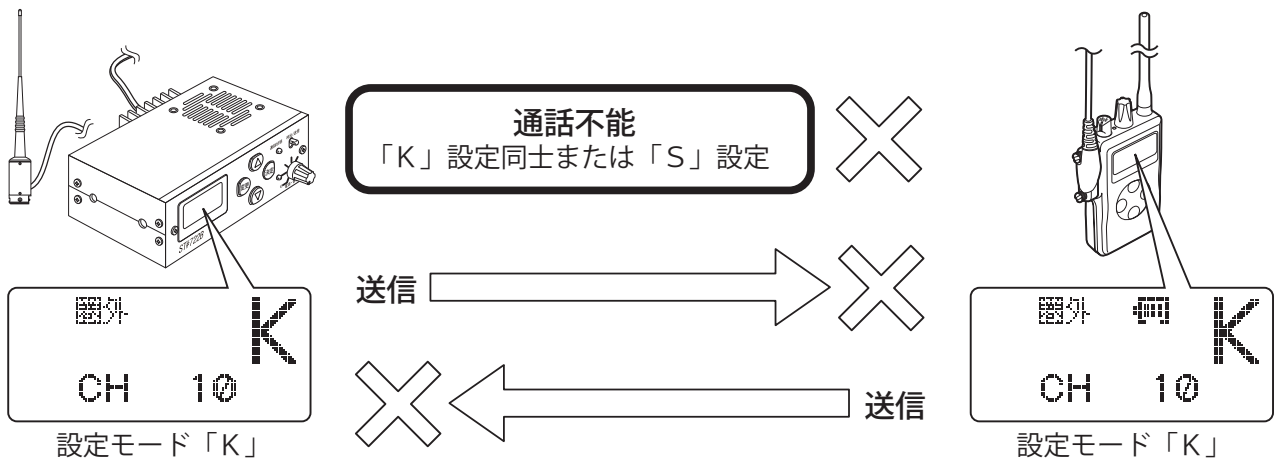
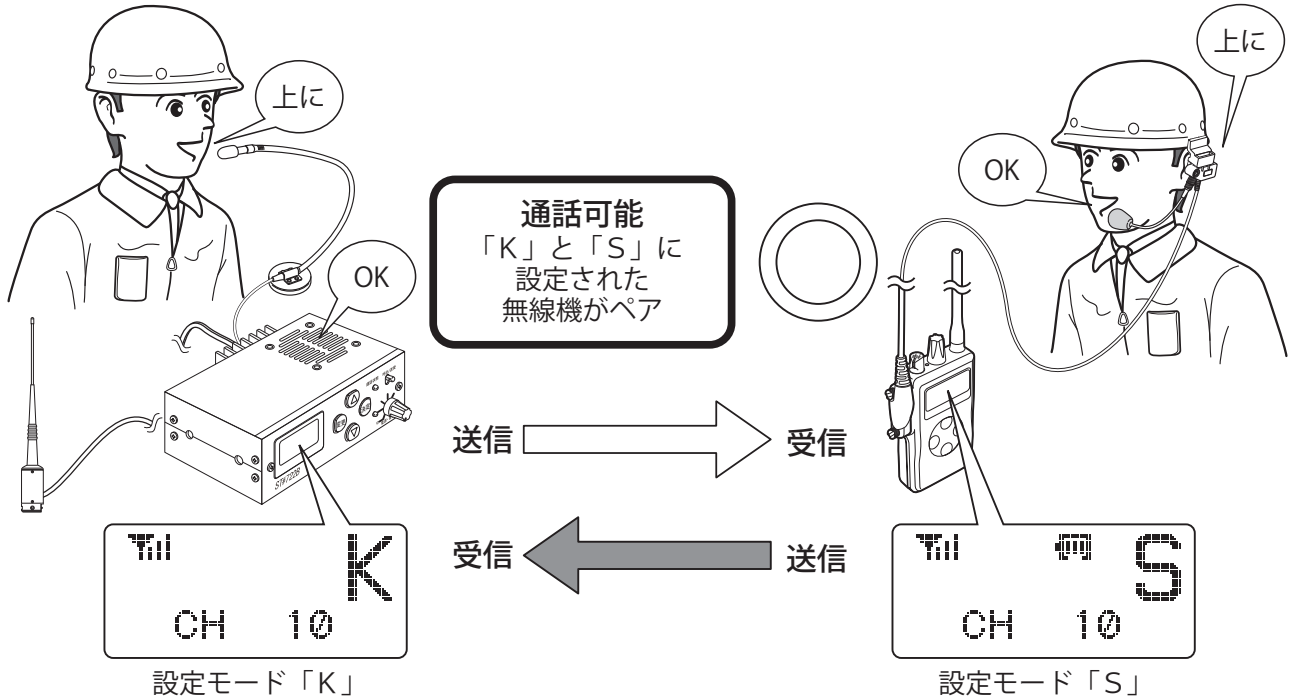
オプション品の紹介

| | |
|--------------------------------------|--------------|
| リモートケーブル 10m ST#722B 用 | ST#722B-10S |
| 延長ケーブル 10m ST#722B 用 | ST#722B-10E |
| 延長ケーブル 20m ST#722B 用 | ST#722B-20E |
| ST#722B 専用すきまケーブル | ST#722B-2N |
| マグネット基台 ST#722 BA 用 | ST#722BA-MB |
| パイプ取付型基台(ラフタークレーン用) ST#722BA 用 | ST#722BA-PBR |
| パイプ取付型基台(タワークレーン用) ST#722BA 用 | ST#722BA-PBT |
| 車載ブラケットネジ付 ST#722BC 用 | PP10246 |
| 連結ブラケットネジ付 ST#722BC 用 | PP10234 |
| フレキマイク | ST#7MIC-02 |
| 外部スピーカー | ST#7227 |
| AC アダプター (100V AC 用) | ST#7ACA-02 |

無線機の通話方法について

同時通話について

本機は、1つのチャンネルに対して、送信用・受信用の2つの周波数を使う同時通話型携帯無線機なので、電話のように相手機の声聞きながらお話しができます。



アドバイス

- 本機は「K」と「S」に設定された無線機がペアになって通話ができます。したがって「K」同士、または「S」同士では通話できません。「K」または「S」の設定変更は「K/Sの設定を変更する」(P.26)をご覧ください。

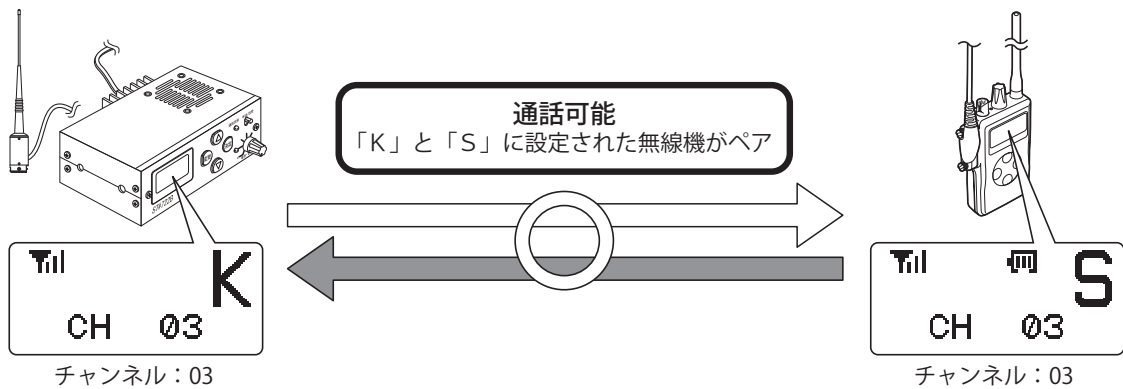
無線機の通話モードについて

本機の通話モード(通話の仕方)にはマニュアルモードと MCA モードがあります。

- マニュアルモードでは、相手機とチャンネルを合わせて通話します。
- MCA モードでは、呼び出したい相手機に設定されている相手機のジブン番号を使って、相手機を呼び出して通話します。

マニュアルモードについて

相手機とチャンネルを合わせて通話する本機の基本的なモードです。お買い上げ時はこのモードに設定されています。ただし、「K」「S」のペアにするため、片方の無線機を変更する必要があります。詳しくは、「K/Sの設定を変更する」(P.26)をご覧ください。



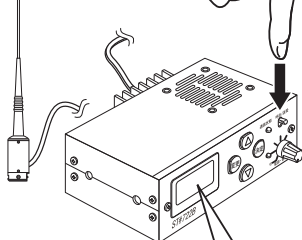
アドバイス

- モードを MCA からマニュアル、またはマニュアルから MCA に切り替えた時に電源を1度入れ直すことをお勧めします。

MCA モードについて

MCA モードとは無線機が自動で空いているチャンネルを探し出して通話を行う方式です。通話の際は、あらかじめ相手機と組番号を合わせておき、相手機に設定されているジブン番号を自機のアイテ番号に設定して相手機を呼び出して通話を行います。MCA モードをお使いになるには、本機の設定を変更する必要があります。詳しくは、「MCA モードで通話する」(P.38)をご覧ください。

「呼出 / 送受」
押す



〒11
03 01 A
アイテ ジブン 組

どちらの無線機からも呼び出せます

アイテ番号、ジブン番号
組番号 設定 OK

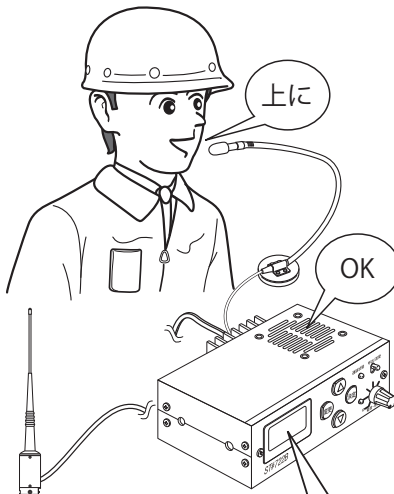
呼出

「ピロ」「ピロ」ピロ」



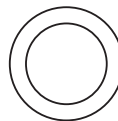
〒11
01 03 A
アイテ ジブン 組

通話確立



〒11
03 01 A
アイテ ジブン 組

同時通話
可能



送信 → 受信

受信 ← 送信



〒11
01 03 A
アイテ ジブン 組

下記のような設定では呼び出しができません。



組番号が違う

〒11 03 01 A
アイテ ジブン 組

〒11 01 03 B
アイテ ジブン 組



アイテ番号
の設定が違う

〒11 03 01 A
アイテ ジブン 組

〒11 02 04 A
アイテ ジブン 組



アイテ番号、ジブン番号
の設定が違う

〒11 03 01 A
アイテ ジブン 組

〒11 03 01 A
アイテ ジブン 組

アドバイス

- 空いているチャンネルが無い場合は、相手機と通話できない場合があります。しばらく待ってから再度お試しください。
- 自機のアイテ番号を「00」に設定して呼び出すと、同時に複数の無線機を呼び出す「一斉呼び出し」となります。必要なとき以外、アイテ番号を「00」に設定しないでください。

マニュアルモードでの通話

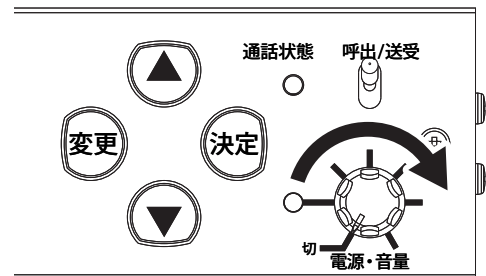
電源の入切

- ① 電源を入れるには、電源・音量ツマミを時計方向に回す

- 電源が入り、約2秒後に表示部が点灯します。

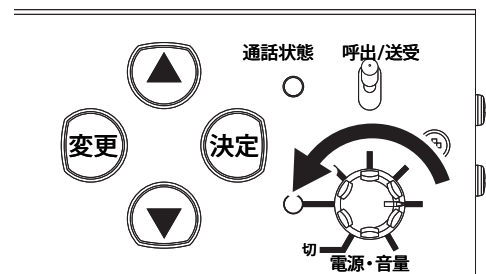


(マニュアルモードでの使用状態の一例)



- ② 電源を切るには、電源・音量ツマミを反時計方向に回し切る

- 電源が切れて、表示部が消灯します。

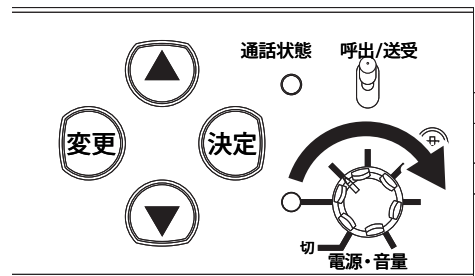


📌 アドバイス

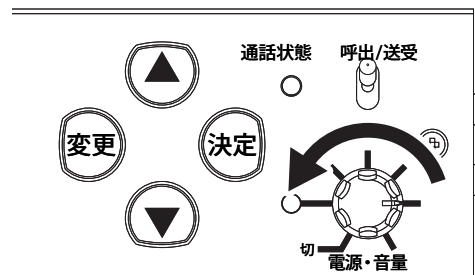
- お買い上げ時、またはオールリセットを行った後は、モード・設定はマニュアルモードになります。
- 送信設定において「ソウシンキドウ」が設定されていると、電源を入れるだけで、送信を開始し、通話状態インジケータが赤色に点灯します。送信設定を変更するには「送信の開始手順を変更する」(P.54)をご覧ください。

音量を調節する

- 1 音量を上げるには電源・音量つまみを時計方向に回す



- 2 音量を下げるには電源・音量つまみを反時計方向に回す



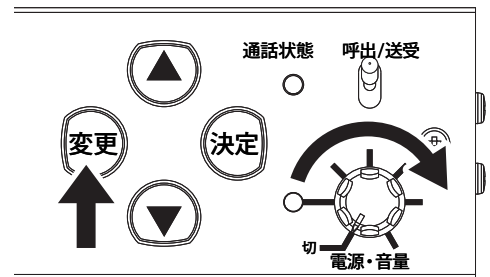
アドバイス

- 通話の音量は最小にしてから調整してください。通話を行いながら徐々に音量を上げて、最適な音量にしてください。

K / S の設定を変更する (K / S 設定モード)

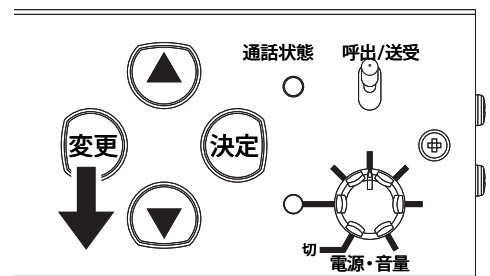
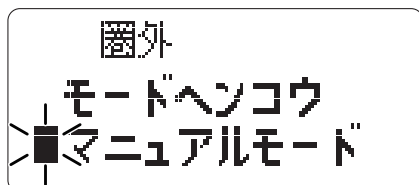
本機は、「K」と「S」に設定された無線機がペアになって通話ができます。したがって「K」同士または「S」同士では通話できません。

① [変更] ボタンを押しながら電源を入れる

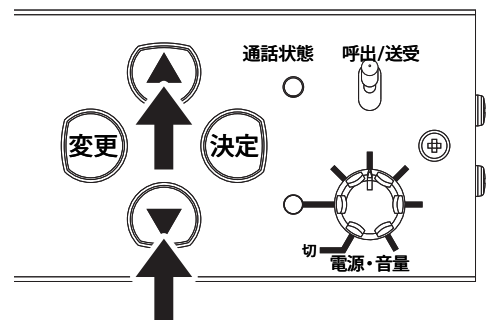
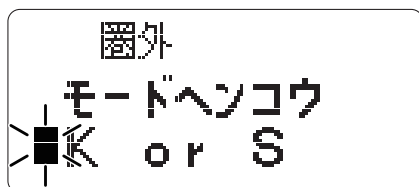


② 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す

- 「モードヘンコウ」が表示されるまえに、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示にはなりません。

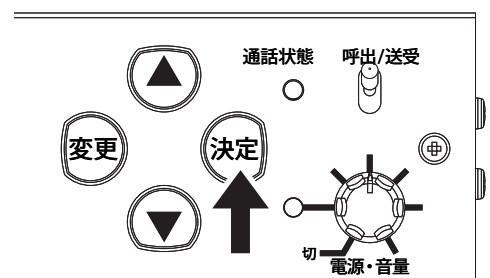


③ [▲] または [▼] ボタンを押して「K or S」を選択する



④ [決定] ボタンを押す

- 「K」または「S」を選択する表示に変わります。

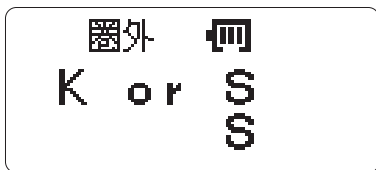


(次ページに続く→)

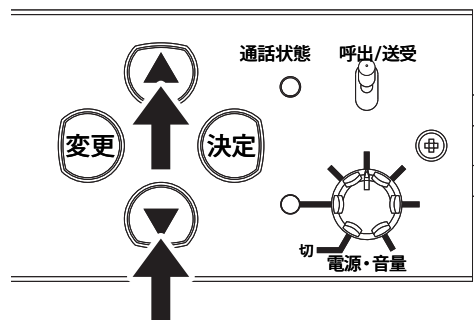
5 [▲] または [▼] ボタンを押して、「K」または「S」を選択する



自機



相手機



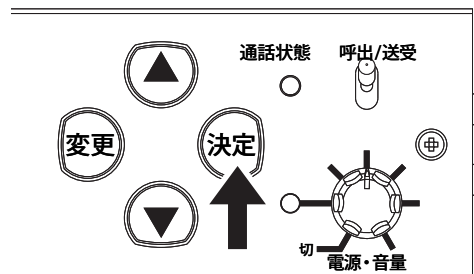
6 [決定] ボタンを押して、変更した内容を決定する



自機



相手機



アドバイス

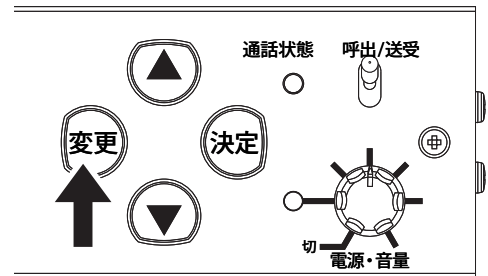
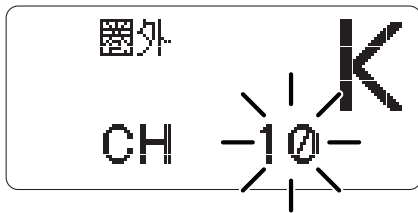
- 別機種種の ST#702II-B、ST#702II-K や ST#702II-S とも通話ができます。
 ※ ST#702II-K、ST#702II-B と通話する場合は、本機を「S」に設定してください。
 ※ ST#702II-S と通話する場合は、本機を「K」に設定してください。

チャンネルを合わせる

マニュアルモードでは、相手機とチャンネルを合わせて通話します。

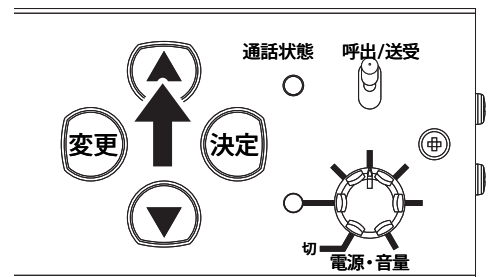
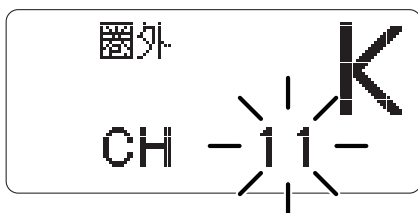
1 [変更] ボタンを押す

- チャンネルが点滅します。

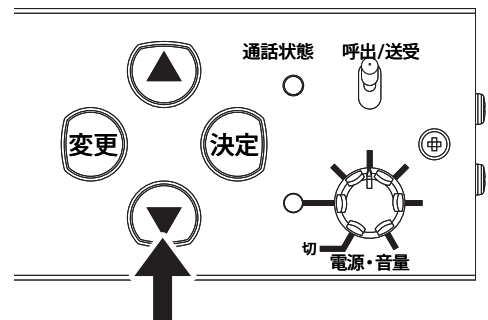
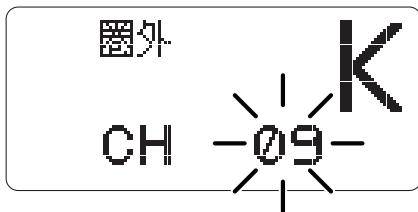


2 チャンネルを上げるには、[▲] ボタンを押す

- チャンネルは、01～18チャンネルまで設定できます。

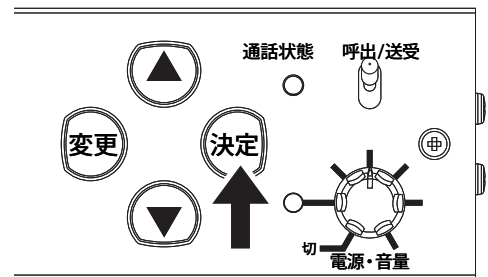
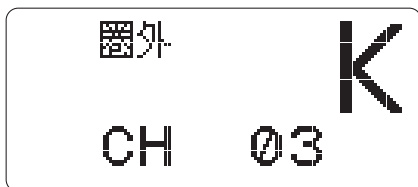


3 チャンネルを下げるには、[▼] ボタンを押す



4 [決定] ボタンを押して、変更したチャンネルを決定する

- チャンネルを変更した後、約10秒間何も操作を行わないと、チャンネルが自動的に決定されます。



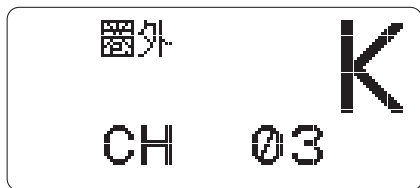
アドバイス

- [▲] または [▼] ボタンを押し続けると、連続してチャンネルを変更できます。
- チャンネルの変更は、チャンネルが点滅している間に行ってください。
- 変更したチャンネルは、保存されます。一度電源を切って、再度電源を入れた場合、電源を切ったときのチャンネルで起動します。

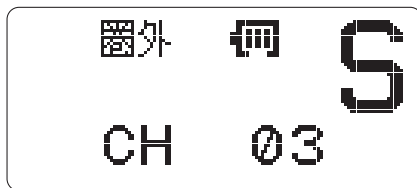
マニュアルモードで通話する

受信するには

- ① 相手機と同じチャンネルに合わせるために (P.28) をご覧ください




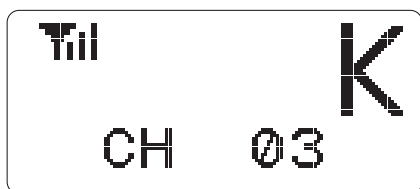
自機



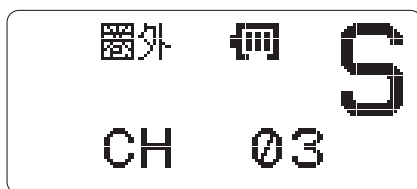
相手機

- ② 相手機が送信するのを待つ

- 受信すると表示部に  (受信強度) が表示されます。
- 電源・音量ツマミ横の通話状態インジケータが緑に点灯し受信状態になります。(P.30 別表参照)
- 相手機の音声スピーカーから聞こえます。



自機

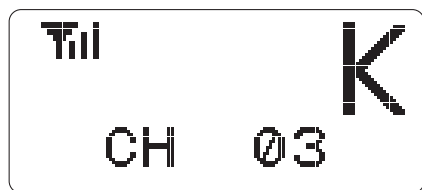


相手機

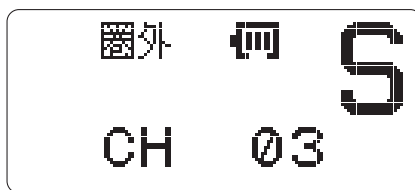
- S (相手機) が送信した場合の K (自機) のアンテナ表示

送信するには

- ① 相手機と同じチャンネルに合わせるために (P.28) をご覧ください



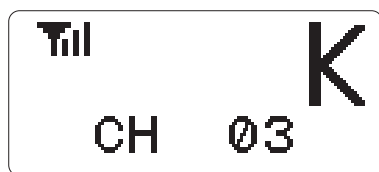
自機



相手機

- ② [呼出 / 送受] スイッチを押し下げる

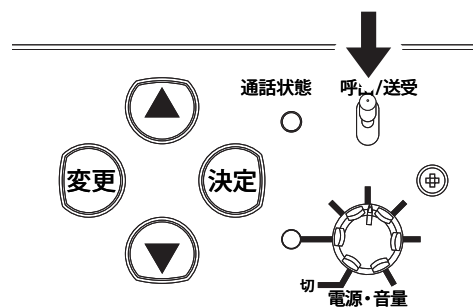
- [呼出 / 送受] スイッチ横の通話状態インジケータが赤く点灯し、送信状態になります。
- もし、通話状態インジケータが赤く点灯していない場合は、[呼出 / 送受] スイッチをもう一度押ししてください。



自機



相手機



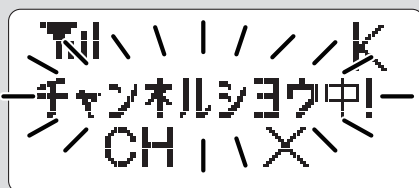
通話状態インジケータ 状態別表示

| | |
|------|-----------|
| 赤色点灯 | 通話中(送受信中) |
| 緑色点灯 | 受信(受信のみ) |

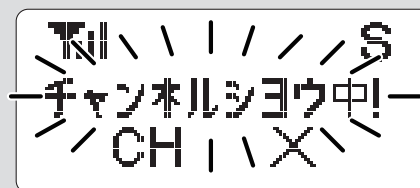
- ③ 受信状態に戻るには、[呼出 / 送受] スイッチを再度押し下げる

アドバイス

- 「ピーピー」という警告音が出ているときは、他の人が同じチャンネルを使用していますので送信できません。チャンネルを変更してください。



自機



相手機

この時には、チャンネルとXが交互に表示されます。

「CH X」は、送信禁止状態の表示です。

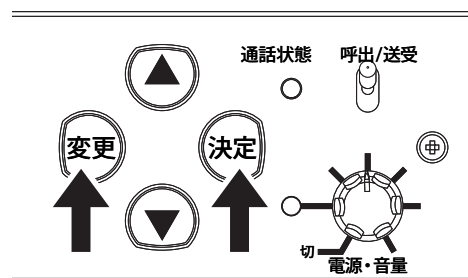
- 送信設定において「ソウシンキドウ」が設定されていると、電源を入れるだけで、送信を開始し、通話状態インジケータが赤色に点灯します。送信設定を変更するには「送信の開始手順を変更する」(P.54) をご覧ください。

誤ってボタンを押しても変更できないようにする(キーロック機能)

チャンネルおよびモード・設定が変わらないように、キーロックすることができます。

① 電源を入れた状態で が表示されるまで [変更] ボタンおよび [決定] ボタンを同時に押す

- キーロックが掛かり、チャンネルとモード・設定が変更できなくなります。
- 工場出荷状態は、ボタンを同時に押す時間は3秒に設定されています。



② キーロックを解除するには、電源を入れた状態で が消えるまで [変更] ボタンおよび [決定] ボタンを同時に押す

アドバイス

- キーロックは、保存されます。一度電源を切った場合でも、再度電源を入れたときにはキーロックが掛った状態になります。
- キーロックを掛けるための [変更] ボタンおよび [決定] ボタンを同時押しする時間は、「キーロックがかかるまでの時間を変更する」(P.52) で変更できます。
- キーロックを掛けたままでも、送信、受信共にできます。また、音量の調整や電源の入切も可能です。

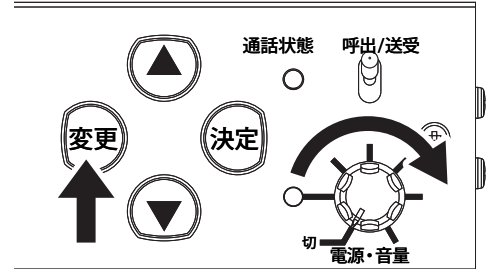
モード・設定をマニュアルモードに変える

MCAモードが設定されているときに、モード・設定をマニュアルモードに変更することができます。

📌 アドバイス

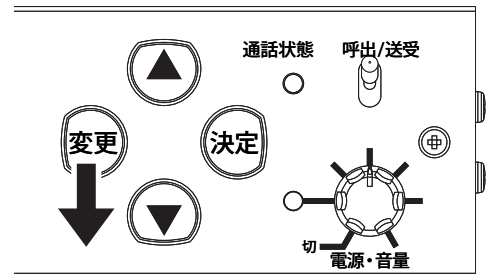
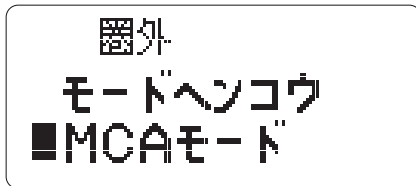
- キーロック状態では、モード・設定を変更することはできません。
モード・設定の変更前に、キーロック状態を解除してください。(P.31)をご覧ください。

1 [変更] ボタンを押しながら電源を入れる

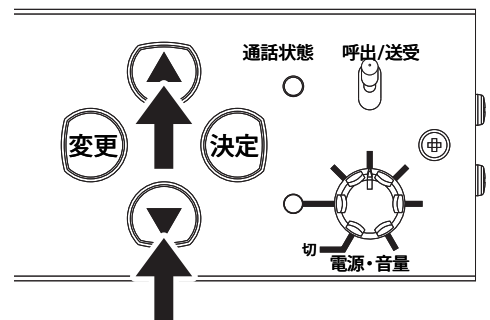


2 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す

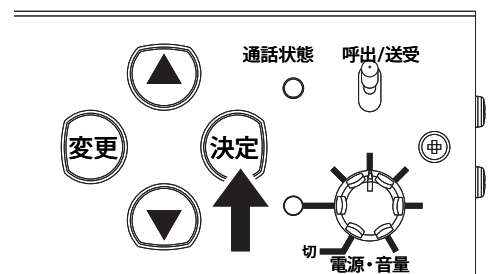
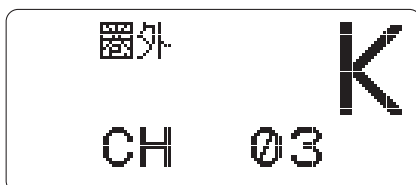
- 「モードヘンコウ」が表示されるまえに、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」表示になりません。



3 [▲] または [▼] ボタンを押して「マニュアルモード」を選択する



4 [決定] ボタンを押して、選択したモードを決定する



- マニュアルモードに設定が変わります。

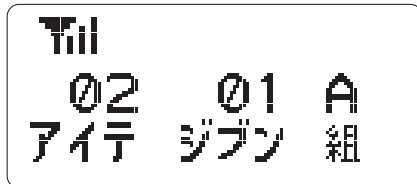
📌 アドバイス

- K/S設定の変更が必要な時は「K/Sの設定を変更する」(P.26)をご覧ください。
- モードをMCAからマニュアル、またはマニュアルからMCAに切り替えた時に電源を1度入れ直すことをお勧めします。

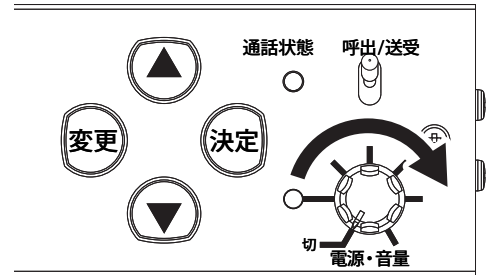
MCA モードでの通話

電源の入切

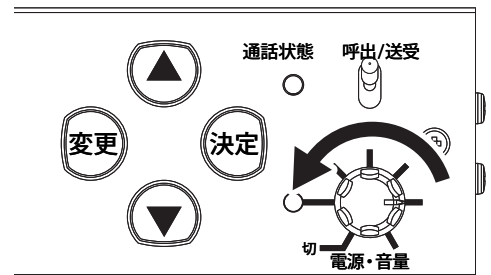
- 1 電源を入れるには、電源・音量ツマミを時計方向に回す
 - 電源が入り、約 2 秒後に表示部が点灯します。



(MCA モードでの使用状態の一例)

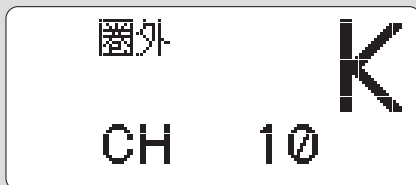


- 2 電源を切るには、電源・音量ツマミを反時計方向に回し切る
 - 電源が切れて、表示部が消灯します。



アドバイス

- マニュアルモード使用時の画面が表示されたときは、「MCA モードを設定する」(P.35) をご覧になり通話モードを MCA モードに設定してください。

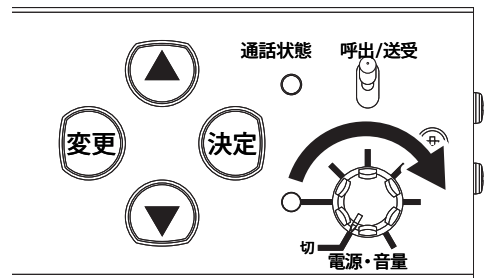


(マニュアルモードでの使用状態の一例)

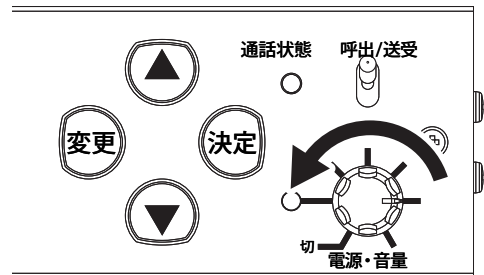
- 送信設定において「ソウシンキドウ」が設定されていると、電源を入れるだけで、呼び出しを開始し、通話状態インジケータが橙色に点灯します。通話状態になると通話状態インジケータは赤色に点灯します。送信設定を変更するには「送信の開始手順を変更する」(P.54) をご覧ください。

音量を調節する

- 1 音量を上げるには電源・音量つまみを時計方向に回す



- 2 音量を下げるには電源・音量つまみを反時計方向に回す



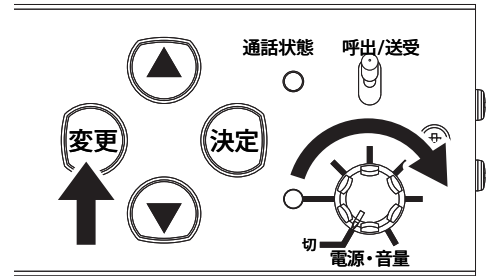
アドバイス

- 通話の音量は最小にしてから調整してください。通話を行いながら徐々に音量を上げて、最適な音量にしてください。

MCA モードを設定する

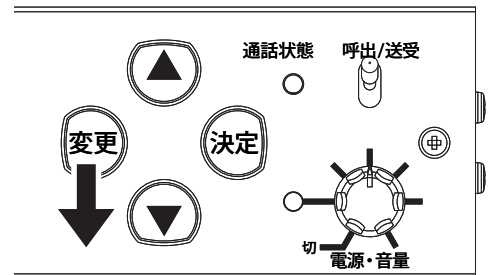
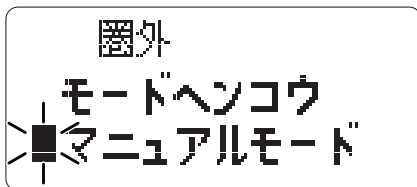
MCA モードで通話を行うには、設定・モードを MCA モードに設定する必要があります。また、あらかじめジブン番号、組番号を設定しておく必要があります。

① [変更] ボタンを押しながら電源を入れる

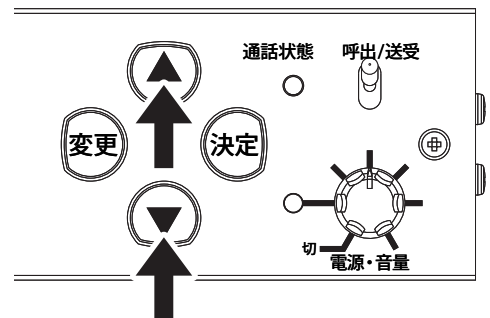


② 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す

- 「モードヘンコウ」が表示されるまえに、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示になりません。

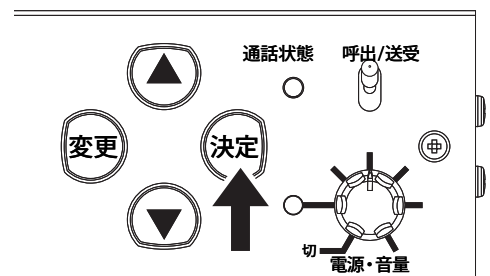


③ [▲] または [▼] ボタンを押して「MCAモード」を選択する



④ [決定] ボタンを押す

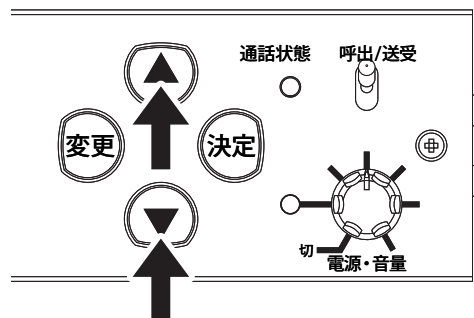
- ジブン番号の設定を変更する表示に変わります。



(次ページに続く→)

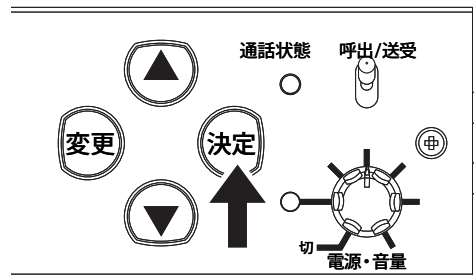
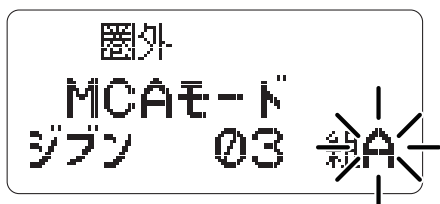
5 [▲] または [▼] ボタンを押して、ジブン番号を選択する

- ジブン番号は「01」～「99」の間で設定できます。



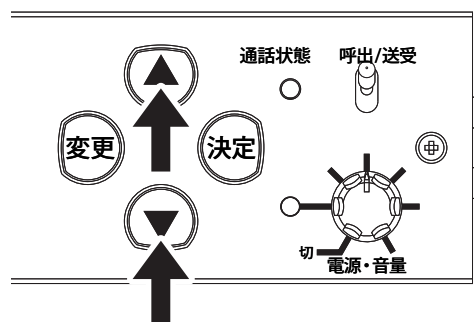
6 [決定] ボタンを押す

- ジブン番号が設定され、組番号の設定を変更する表示に変わります。

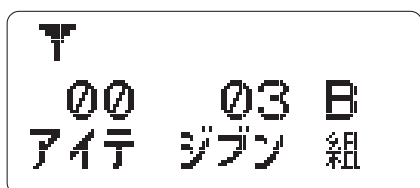


7 [▲] または [▼] ボタンを押して、組番号を選択する

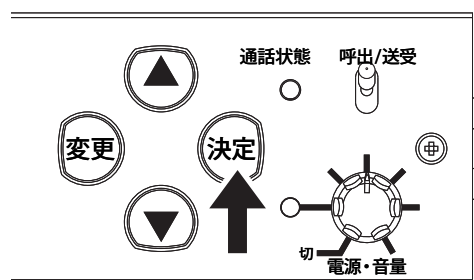
- 組番号は「A」～「Z」の間で設定できます。(「I」、「O」は除く。)
- 組番号はあらかじめグループ内で決めておいた組番号に設定してください。



8 [決定] ボタンを押す



- MCA モードのジブン番号と組番号を設定しました。アイテ番号(呼び出す相手の番号)を設定してください。(P.37)をご覧ください。



📌 アドバイス

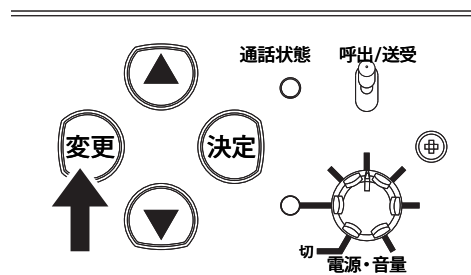
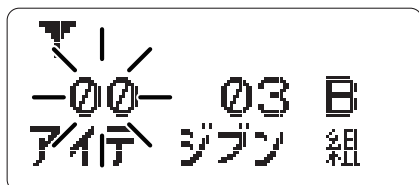
- 設定した MCA モード、ジブン番号、組番号は、保存されます。一度電源を切った場合でも次回からの通話では、再度設定する必要はありません。
- モード・設定をマニュアルモードに設定しても、ジブン番号、組番号は、保存されています。再度通話モード・設定を MCA モードにすると、先に設定したジブン番号、組番号が使えますので、再度設定する必要はありません。
- ジブン番号は同じグループ(同じ組番号)の他の人と同じにならないように設定してください。
- 「A」～「Z」の内、「I」、「O」は組番号で設定できません。

アイテ番号を設定する

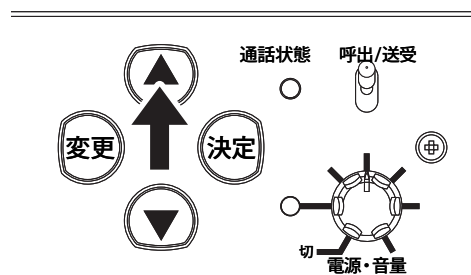
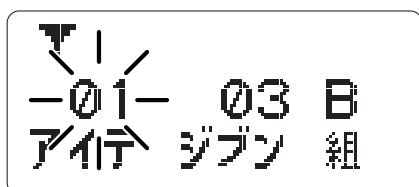
MCA モードで通話を行うには、あらかじめ設定した組によりグループ設定された同じグループの相手に対して、アイテ番号(相手機のジブン番号)を合わせることで自動的に空きチャンネルを探して通話することができます。

1 [変更] ボタンを押す

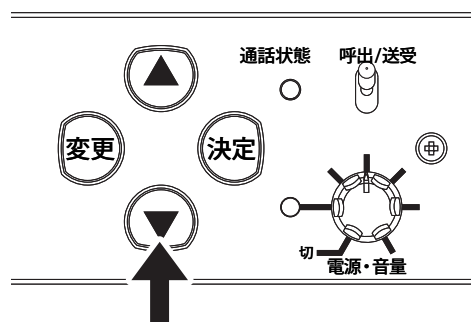
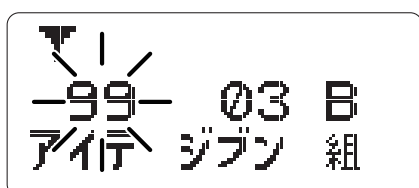
- アイテ番号を変更する表示に変わります。



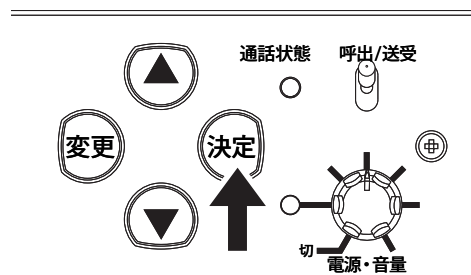
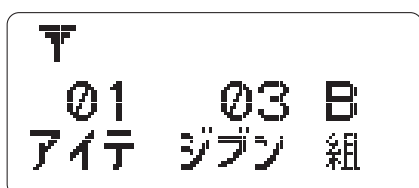
2 アイテ番号(相手機のジブン番号)を上げるには、[▲]を押す



3 アイテ番号(相手機のジブン番号)を下げるには、[▼]を押す



4 変更したアイテ番号を決定するには、[決定]を押す



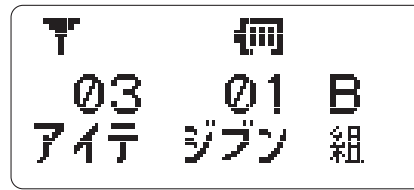
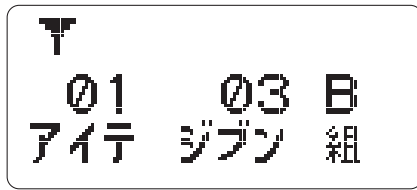
アドバイス

- [▲] または [▼] を押し続けると、連続してアイテ番号を変更できます。
- 設定したアイテ番号は、保存されます。一度電源を切った場合でも次回からの通話では、電源を切ったときのアイテ番号で起動します。
- アイテ番号を「00」に設定するとグループ内全員の一齐呼び出しになります。必要な時以外、アイテ番号を「00」に設定しないでください。「MCA モードの一齐呼び出し」については(P.39)をご覧ください。

MCA モードで通話する

受信するには

- ① 自機のアイテ番号と相手機のジブン番号を合わせるために (P.37) をご覧ください



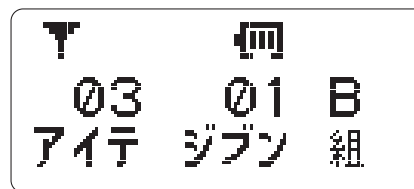
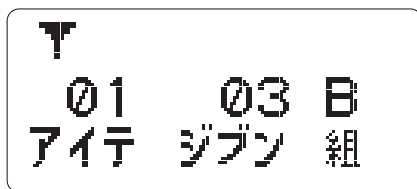
- ② 相手機からの送信を待つ

- 相手機が送信するとスピーカより「ピピピッ」と音が鳴り自動的に受信して、送受信状態となります。

送信するには

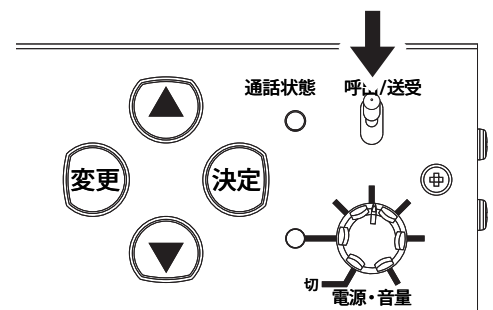
- ① 自機のアイテ番号と相手機のジブン番号を合わせるために (P.37) をご覧ください

- ② スピーカーから音声が出ていないことを確認する



- ③ [呼出 / 送受] スイッチを下に押し下げる

- [呼出 / 送受] スイッチ横の通話状態インジケータが橙色に点灯し、呼び出し状態になります。
- 通話状態になると通話状態インジケータが赤色に点灯します。
- もし、通話表示インジケータが橙色に点灯していない場合は、[呼出 / 送受] スイッチをもう一度押し下げてください。



MCA モードの一斉呼び出し

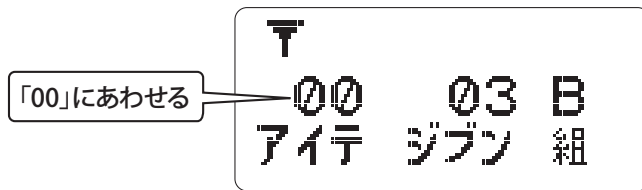
MCA モードの一斉呼び出しとは、呼び出しする人がラジオの放送をするのと同じ状況です。一斉呼び出しを行う無線機と同じ「組」で、かつ通話可能距離にいる待ち受け状態の無線機は全員受信します。

呼ばれている無線機は一斉呼び出しを行った相手に対して、任意の1名のみ応答して相互通話ができます。

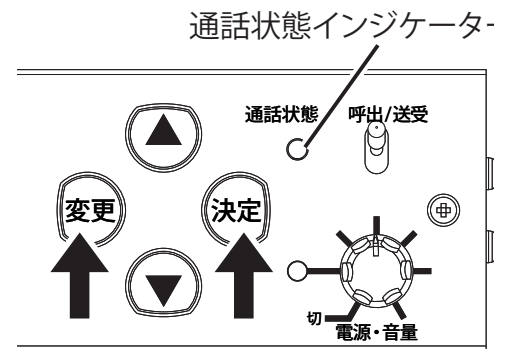
※ MCA モードはエコー 1 : N の設定がないため、相互通話をしている任意の1名の無線機以外は、一斉呼び出しを行っている無線機からの音声のみを受信します。

一斉呼び出しを送信するには

- 1 自機のアイテ番号を「00」に合わせる




- 2 スピーカから音声が出ていないことを確認する
(通話状態インジケータが消灯しているのを確認)



- 3 [呼出 / 送受] スイッチを押し下げる
 - 通話エリア内にいる、同じ組番号の待ち受け状態にある無線機すべてを一斉に呼び出します。
 - 通話状態インジケータが赤色の表示になって送信を開始します。
- 4 再度 [呼出 / 送受] スイッチを押し下げる
 - 一斉呼び出しを解除して送信を停止し待ち受け状態になります。

一斉呼び出しを受信するには

- 1 スピーカから音声が出ていないことを確認する
- 2 相手機(一斉呼び出しをする無線機)からの送信を待つ
 - 空きチャンネルを自動検知して呼び出しをかけてくるので、あらかじめアイテ番号を合わせる必要はありません。
 - 相手機が送信すると、スピーカより「ピピピピッピピピッ」という呼び出し音が鳴り自動的に受信し、表示部に  (受信強度)が表示されます。
 - 電源・音量ツマミ横の通話状態インジケータが緑に点灯し受信状態になります。この状態は受信状態ではないため相互通話はできませんのでご注意ください。

通話状態インジケータ 状態別表示

| | |
|------|-------------------|
| 赤色点灯 | 通話中(送受信) |
| 緑色点灯 | 受信(受信のみ) |
| 橙色点灯 | 呼び出し中(MCA モード時のみ) |

アドバイス

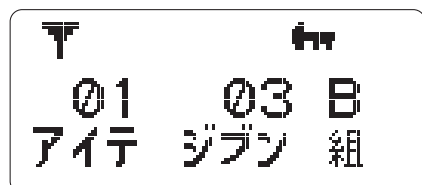
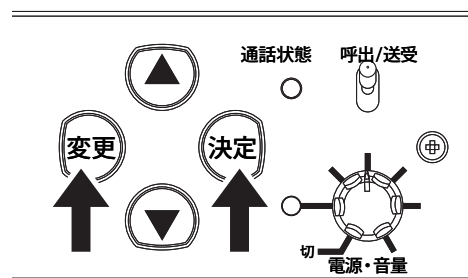
- 任意の1名のみ [呼出 / 送受] スイッチを押し下げることにより、一斉呼び出しをした局と一斉呼び出しをされた局と相互通話することができます。
- 相互通話中に上記任意の1名が再度 [呼出 / 送受] スイッチを押し下げると、送信を解除し相互通話状態から受信状態に戻ります。
- 一斉呼び出しされた状態を解除(グループを離脱)するには、一度電源を切ってください。
- 一斉呼び出しを行った無線機と任意の1名が相互通話中に、一斉呼び出しをされた他の無線機使用者が [通話] ボタンを押すと、混信します。

誤ってボタンを押しても変更できないようにする(キーロック機能)

チャンネルおよびモード・設定が変わらないように、キーロックすることができます。

① 電源を入れた状態で が表示されるまで [変更] ボタンおよび [決定] ボタンを同時に押す

- キーロックが掛かり、チャンネルとモード・設定が変更できないようになります。
- 工場出荷状態は、ボタンを同時に押す時間は3秒に設定されています。



② キーロックを解除するには、電源を入れた状態で が消えるまで [変更] ボタンおよび [決定] ボタンを押す

アドバイス

- キーロック機能は、保存されます。一度電源を切った場合でも、再度電源を入れたときにはキーロックが掛った状態になります。
- キーロックを掛けるための [変更] ボタンおよび [決定] ボタンを同時押しする時間は、「キーロックがかかるまでの時間を変更する」(P.52)をご覧ください。
- キーロックを掛けたままでも、送信、受信共にできます。また、音量の調整や電源の入切も可能です。

モード・設定の一覧

| 設定モード名 | 表示 | ページ |
|-------------------------|-----------|-----|
| マニュアルモード | マニュアルモード | 24 |
| トーン追従モード | トーンツイジュウ | 45 |
| エコー1:Nモード※ ¹ | エコー1:N | 46 |
| 特殊トーンモード | TX・RXトーン | 49 |
| K/S設定モード | K or S | 26 |
| MCAモード | MCAモード | 35 |
| マイク感度変更設定 | マイクカンド | 51 |
| キーロック受付時間変更設定 | キーロックジカン | 52 |
| ヘッドセットテスト設定 | ヘッドセットテスト | 53 |
| 送信設定 | ソウシンセッテイ | 54 |
| オールリセット設定 | オールリセット | 56 |

※1：マニュアル、特殊トーン、トーン追従の場合のみ設定ができます。

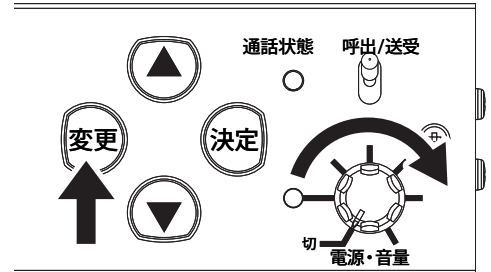
モード・設定を変える

モード(通話方法)や無線機の設定を変更することができます。

📌 アドバイス

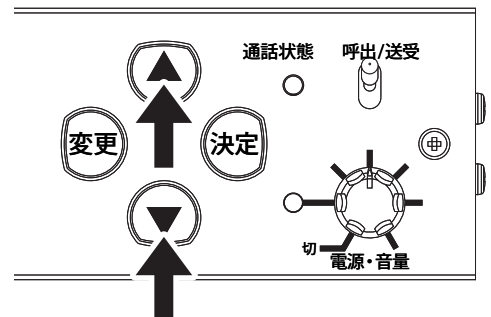
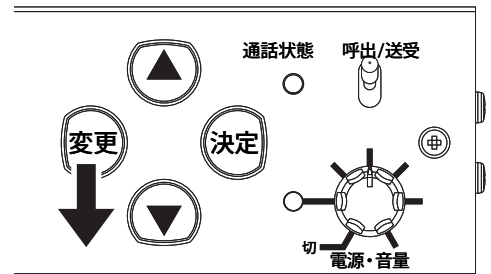
- キーロック状態では、モード・設定を変更することはできません。
モード・設定の変更前に、キーロック状態を解除してください。(P.31)または(P.41)をご覧ください。

1 [変更] ボタンを押しながら電源を入れる



2 表示部に「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放し、 [▲] または [▼] ボタンを押して、変更したい モード・設定を選択する

- 「モードヘンコウ」が表示されるまえに、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の状態にはなりません。



- 操作の方法の詳細は各ページを参照してください。

圏外
モードへんこウ
■ マニュアルモード

(P.24)

圏外
モードへんこウ
■ トーンツイジュウ

(P.45)

圏外
モードへんこウ
■ エコー1:N

(P.46)

圏外
モードへんこウ
■ TX・RXトーン

(P.49)

圏外
モードへんこウ
■ K or S

(P.26)

圏外
モードへんこウ
■ MCAモード

(P.35)

圏外
モードへんこウ
■ マイクカンド

(P.51)

圏外
モードへんこウ
■ キーロックジカン

(P.52)

圏外
モードへんこウ
■ ヘッドセットテスト

(P.53)

圏外
モードへんこウ
■ ソウシンセツテイ

(P.54)

圏外
モードへんこウ
■ オールリセット

(P.56)

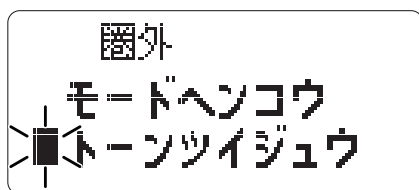
アドバイス

- 変更したモード・設定は、保存されます(ヘッドセットテスト設定除く)。一度電源を切って、再度電源を入れた場合、電源を切ったときのモード・設定で起動します。

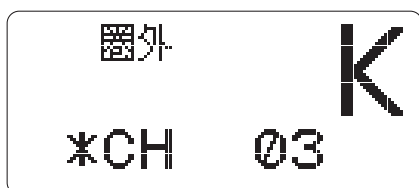
チャンネルの変更に合わせてトーンを自動的に変更できるようにする (トーン追従モード)

トーン追従モードを使うと、チャンネルを変更したときに、それに合ったトーンに自動的に変更されます。チャンネルを変更したときにトーンも変更されるので、不要な受信を防ぐことができます。

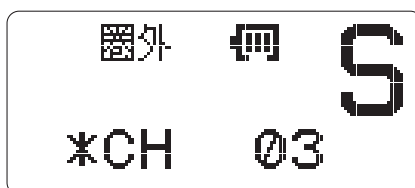
- 1 [変更] ボタンを押しながら電源を入れる
- 2 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す
 - 「モードヘンコウ」が表示される前に、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示になりません。
- 3 [▲] または [▼] ボタンを押して「トーンツイジュウ」を選択する
- 4 [決定] ボタンを押す



- 5 チャンネルの前に「*」が表示されることを確認する
 - チャンネルを変更したときに自動でトーンが変更されます。



自機



相手機

📌 アドバイス

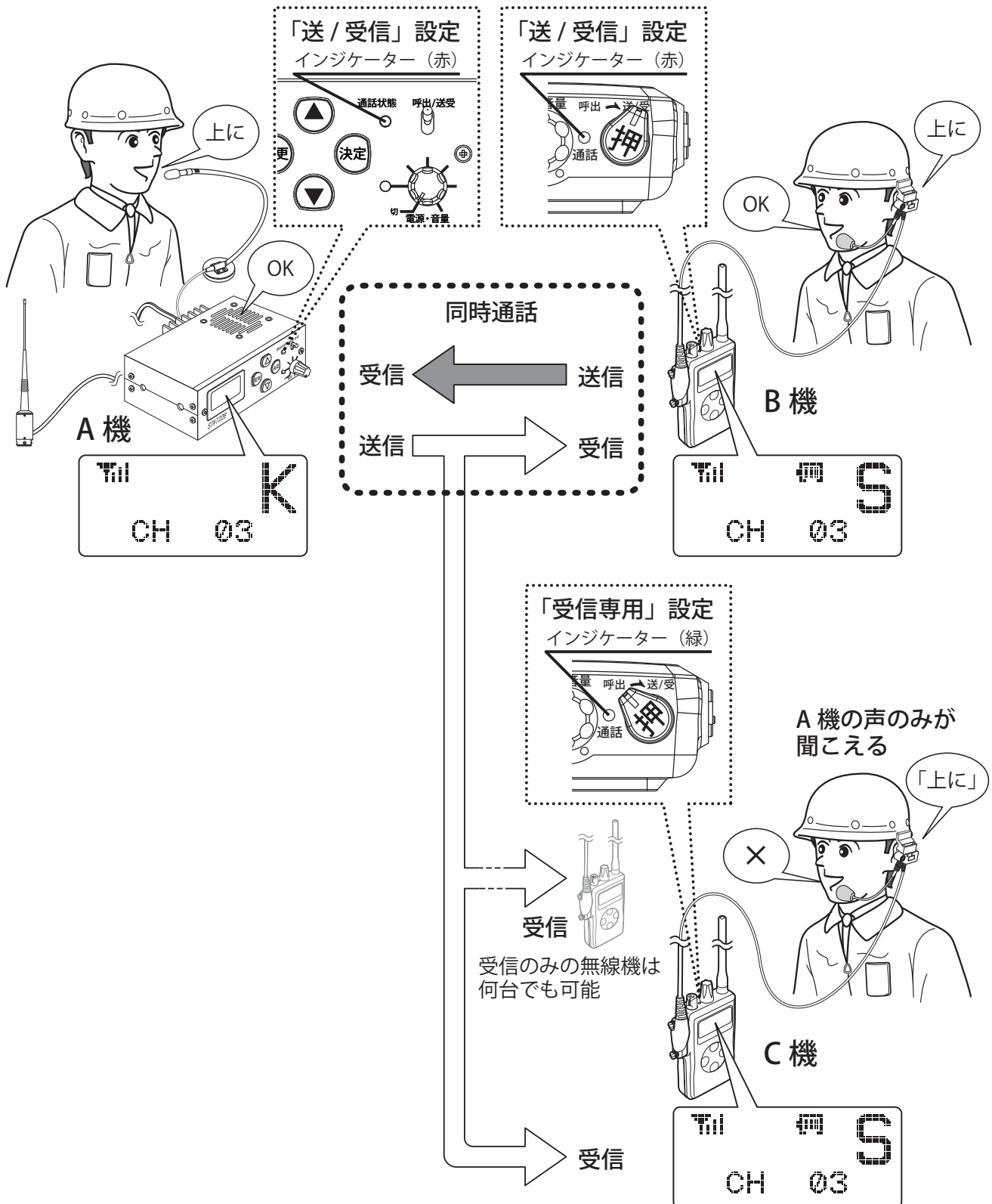
- トーン追従モードを設定したら、相手機も同じようにトーン追従モードに設定してください。相手機がトーン追従モードに設定していないと通話できません。
- トーン追従モードと特殊トーンモードは併用できません。どちらかの設定を選択してください。
- トーン追従モードを解除するには、本書の(P.43)をご覧ください。モード・設定を変更してください。(モード・設定をマニュアルモードに設定してください。)

同時通話の会話を聞けるようにする(エコー 1 : N モード)

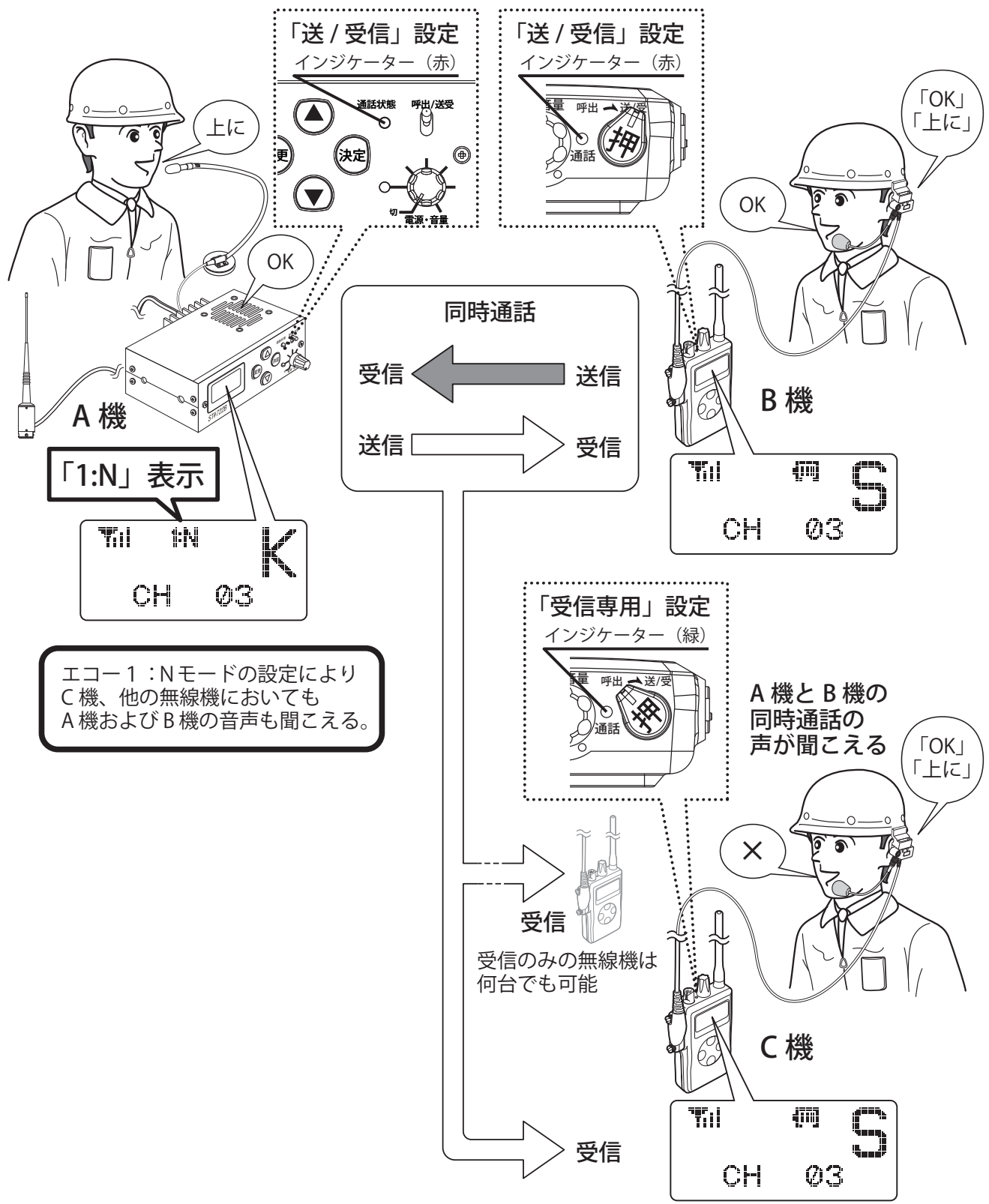
エコー 1 : N モードを使うと、同時通話を行っているときに他の複数の無線機にも通話の内容を聞かせることができます。

通常の使用状態

- エコー 1 : N モードを設定していない状態です。



エコー1：Nモード設定時



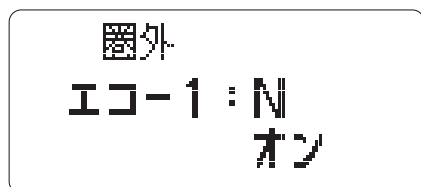
アドバイス

- 上の例の構成の場合、B機は自分とA機の音がスピーカから聞こえます。

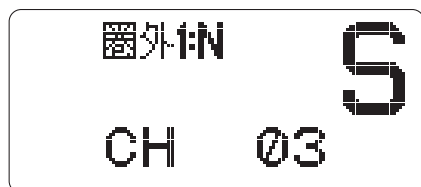
- ① [変更] ボタンを押しながら電源を入れる
- ② 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す
 - 「モードヘンコウ」が表示される前に、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示になりません。
- ③ [▲] または [▼] ボタンを押して「エコー 1 : N」を選択する
- ④ [決定] ボタンを押す
 - モードの設定を「オン」または「オフ」に変更する表示に変わります。



- ⑤ [▲] または [▼] ボタンを押して、「オン」を選択する



- ⑥ [決定] ボタンを押して、変更した内容を決定する
 - これで、エコー 1 : N モードを使って、他の複数の無線機に同時通話の内容を聞かせることができるようになりました。

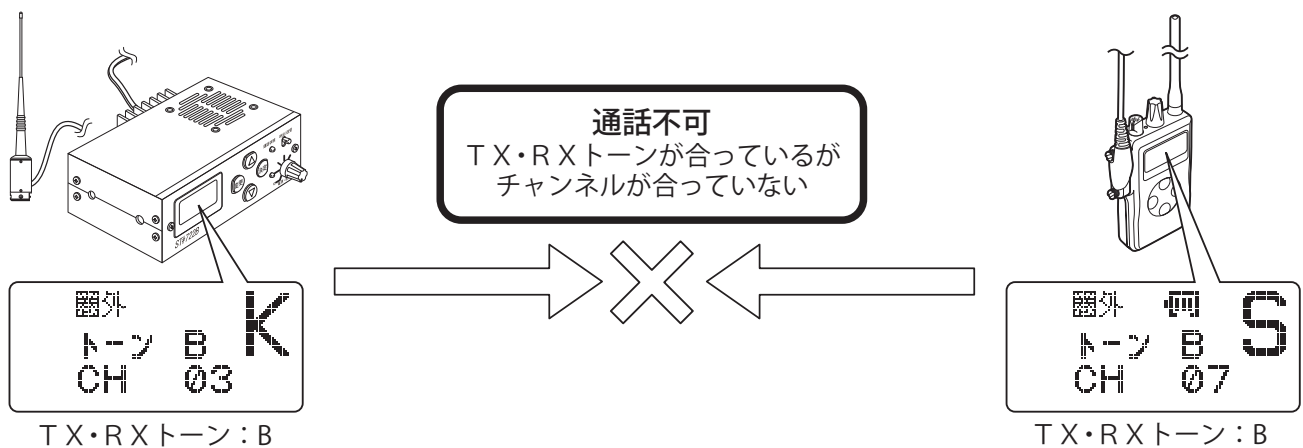


📌 アドバイス

- 通話内容を聞きたい他の複数の無線機は、送信しないでください。
- エコー 1 : N を設定するのは、中継を行う無線機のみにしてください。他の無線機も設定するとハウリングをおこします。
- 通話内容を聞きたい他の複数の無線機の設定は、「エコー 1 : N」を受信できるようにしてください。
- エコー 1 : N でご使用の際は、エコー 1 : N に設定する無線機のマイク感度は「中」にしてください。マイク感度の設定 (P.51) を変更すると戻ってくる音量も変化します。
- ST#722 B (親機) と ST#722 LG/SH (子機) との通話の際はエコー 1 : N 設定は必ず親機で設定してください。
子機をエコー 1 : N に設定するとハウリングを起こします。

特殊トーンを使って通話する(TX・RXトーン)

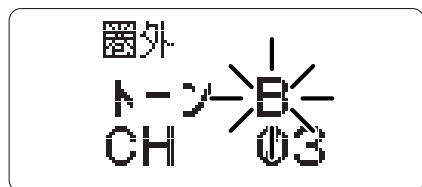
TX・RXトーンモードを使うと、不要な受信を防ぎ、チャンネルおよびTX・RXトーンを合わせた相手機とのみ通話ができます。



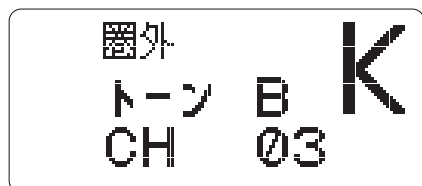
- ① [変更] ボタンを押しながら電源を入れる
- ② 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す
 - 「モードヘンコウ」が表示される前に、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示になりません。
- ③ [▲] または [▼] ボタンを押して「TX・RXトーン」を選択する
- ④ [決定] ボタンを押す
 - トーンを選択する表示に変わります。



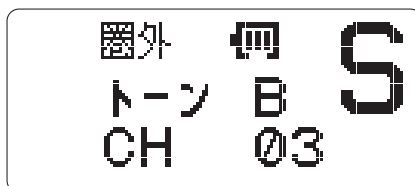
- ⑤ [▲] または [▼] ボタンを押して、TX・RXトーンを選択する
 - TX・RXトーンは、A・B・C・D・E・F・G・H・Jから選択ができます。
 - TX・RXトーンは、相手機と合わせないと通話できません。



- ⑥ [決定] ボタンを押して、変更した内容を決定する
 - TX・RXトーンを使って通話ができるようになり、表示部には設定したトーンが表示されます。



自機



相手機

📌 アドバイス

- TX・RXトーンは不要な受信を防ぐもので、通話を秘匿するものではありません。
- TX・RXトーンを設定して送信すると、トーン番号が合っていない相手には通話は聞こえません。
- TX・RXトーンモードを解除するには、本書の(P.43)をご覧ください。モード・設定を変更してください。(モード・設定をマニュアルモードに設定してください。)

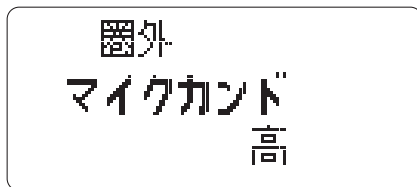
マイクの感度を変更する(マイク感度変更設定)

マイク感度変更設定を使うと、お使いになる周囲の環境に合わせて、無線機のマイク感度を3段階のレベルで変更することができます。

- 1 [変更] ボタンを押しながら電源を入れる
- 2 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す
 - 「モードヘンコウ」が表示される前に、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示になりません。
- 3 [▲] または [▼] ボタンを押して「マイクカンド」を選択する
 - マイク感度を選択する表示に変わります。
- 4 [決定] ボタンを押す
 - マイク感度のレベルを選択する表示に変わります。



- 5 [▲] または [▼] ボタンを押して、「高」、「中」または「低」を選択する
 - 静かな場所で、小さな声でお話しになる場合は、「高」を選択してください。
 - 通常ご使用になる場合は、「中」を選択してください。
 - 騒音下で、大きな声でお話しになる場合は、「低」を選択してください。



- 6 [決定] ボタンを押して、変更した内容を決定する
 - マイク感度が切り変わります。表示は電源を切る前の状態に戻ります。



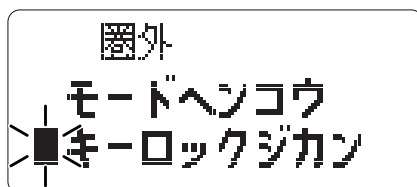
キーロックがかかるまでの時間を変更する (キーロック受付時間変更設定)

キーロック受付時間変更設定を使うと、[変更] ボタンと [決定] ボタンを同時に押して、キーロックが掛るまでの時間を 0 秒から 9 秒の間で変更することができます。

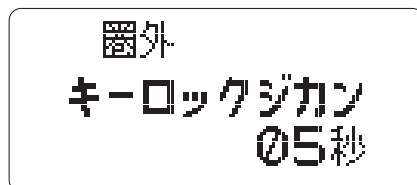
0 秒を選択するとキーロックはかかりません。

工場出荷状態は、ボタンを同時に押す時間は 3 秒に設定されています。

- 1 [変更] ボタンを押しながら電源を入れる
- 2 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す
 - 「モードヘンコウ」が表示される前に、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示になりません。
- 3 [▲] または [▼] ボタンを押して「キーロックジカン」を選択する
- 4 [決定] ボタンを押す
 - キーロックが掛るまでの時間を選択する表示に変わります。



- 5 [▲] または [▼] ボタンを押して、キーロックが掛るまでの時間を選択する
 - キーロックが掛るまでの時間は 0 秒～9 秒の範囲で、1 秒間隔で選択できます。



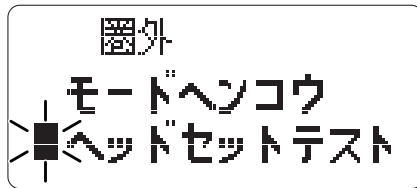
- 6 [決定] ボタンを押して、変更した内容を決定する
 - キーロックが掛るまでの時間が変わります。表示は電源を切る前の状態に戻ります。



マイクとスピーカの動作をテストする(ヘッドセットテスト設定)

この設定を選択すると、お使いのマイクや外部スピーカが正常かテストできます。

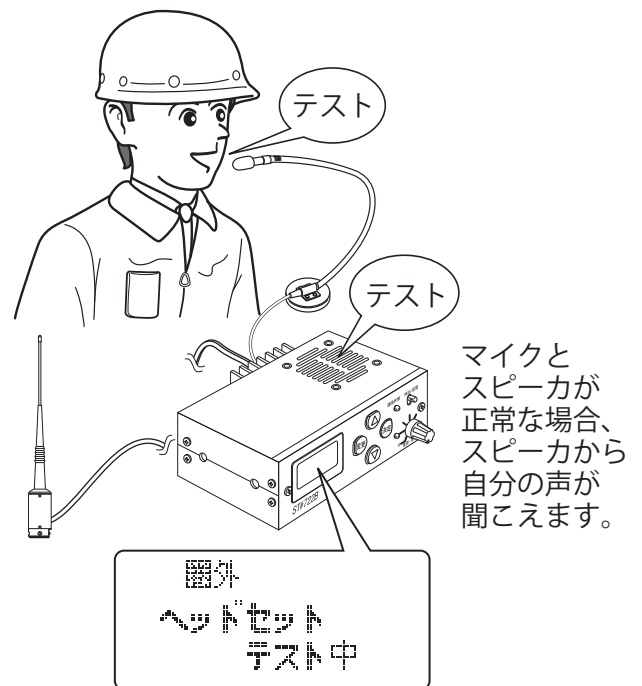
- 1 [変更] ボタンを押しながら電源を入れる
- 2 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す
 - 「モードヘンコウ」が表示される前に、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示になりません。
- 3 [▲] または [▼] ボタンを押して「ヘッドセットテスト」を選択する
- 4 [決定] ボタンを押す



- 5 ヘッドセットテスト設定状態になる



- 上記の表示状態でヘッドセットのテストを行ってください。



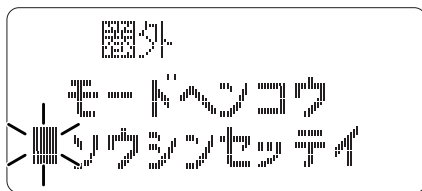
📌 アドバイス

- ヘッドセットテスト設定では通話できません。通話を行う前にヘッドセットテスト設定を解除してください。
- 電源を入れ直す、またはもう一度 [決定] ボタンを押すとヘッドセットテスト設定は解除されます。

送信の開始手順を変更する

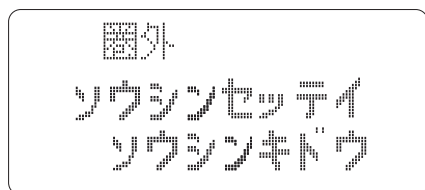
電源を入れただけで送信が始まるよう、設定を変更できます。

- 1 [変更] ボタンを押しながら電源を入れる
- 2 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す
 - 「モードヘンコウ」が表示される前に [変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示になりません。
- 3 [▲] または [▼] ボタンを押して「ソウシンセツテイ」を選択する
- 4 [決定] ボタンを押す

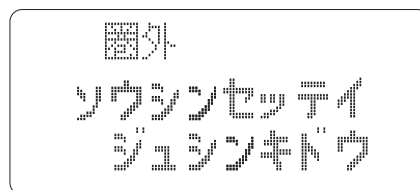


- 送信の開始手順を選択する表示に変わります。

- 5 [▲] または [▼] ボタンを押して「ソウシンキドウ」または「ジュシンキドウ」を選択する

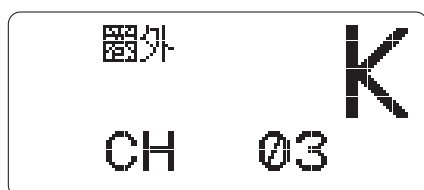


ソウシンキドウ



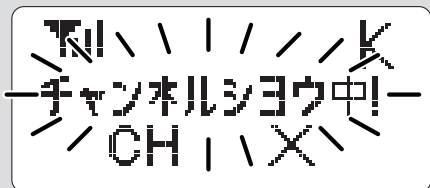
ジュシンキドウ

- 「ソウシンキドウ」
本機の電源を入れただけで、すぐに送信を開始したい場合は「ソウシンキドウ」を選択してください。
送信を停止するには、電源を入れた後で [呼出 / 送受] スイッチを押し下げます。通話状態インジケータの赤が消灯します。送信を停止しているときに受信すると、通話状態インジケータは緑に点灯します。
 - 「ジュシンキドウ」
本機の電源を入れたとき、受信のみにしたい場合は「ジュシンキドウ」に設定してください。
送信を開始するには、電源を入れた後で [呼出 / 送受] スイッチを押し下げます。通話状態インジケータが赤く点灯します。
 - 送信および受信については、「マニュアルモードで通話する」(P.29)をご覧ください。
- 6 [決定] ボタンを押して、変更した内容を決定する。
 - 電源を入れた直後の送信開始手順が変更されます。

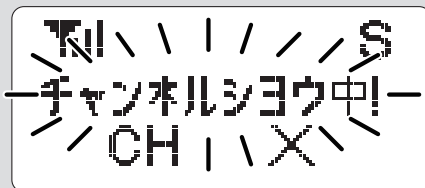


📌 アドバイス

- 「ピーピー」という警告音が出ているときは、他の人が同じチャンネルを使用していますので送信できません。チャンネルを変更してください。



自機



相手機

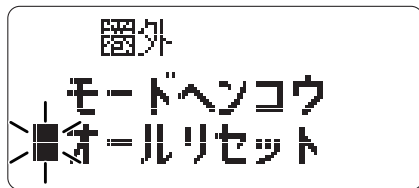
この時には、チャンネルとXが交互に表示されます。

「CH X」は、送信禁止状態の表示です。

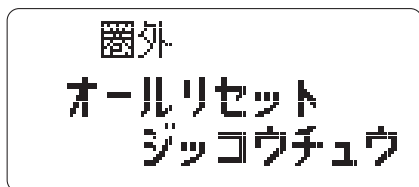
全ての設定を元に戻す(オールリセット設定)

オールリセット設定を使うと、設定した全ての内容を工場出荷状態に戻すことができます。
「工場出荷状態一覧」(P.58)をご覧ください。

- 1 [変更] ボタンを押しながら電源を入れる
- 2 「モードヘンコウ」が表示されたら、[変更] ボタンを放す
 - 「モードヘンコウ」が表示される前に、[変更] ボタンを放すと「モードヘンコウ」の表示になりません。
- 3 [▲] または [▼] ボタンを押して「オールリセット」を選択する
- 4 [決定] ボタンを押す



- オールリセット「ジッコウチュウ」の表示に変わります。



- 5 マニュアルモードの10チャンネル、「K」設定に戻ったことを確認する



- 本機の設定内容はオールリセットされました。

アドバイス

- オールリセットを行う前に、必要な設定はメモをしておいてください。

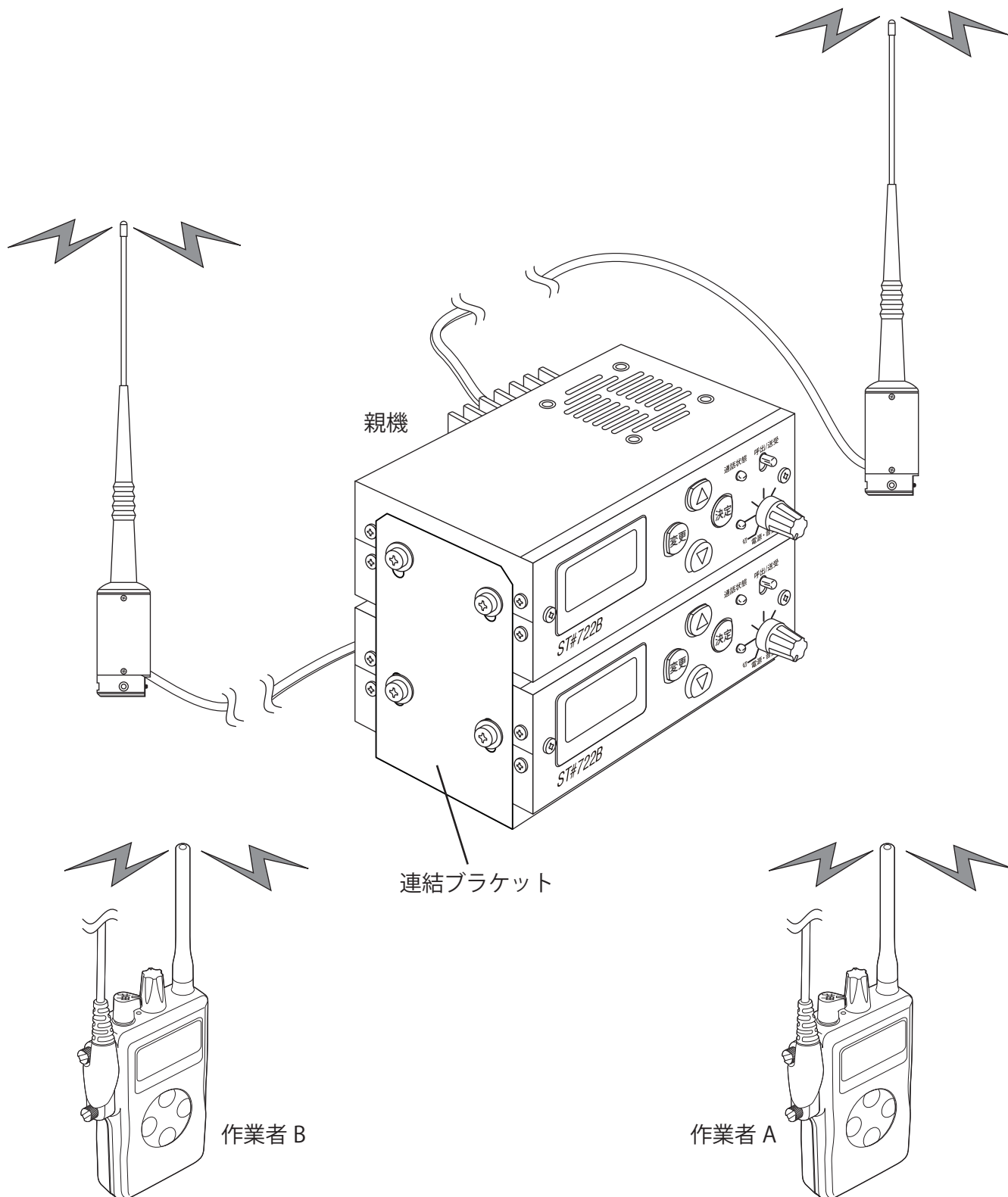
その他の使い方

特定小電力無線機操作ユニット (ST#722BC) の 2 段重ね (取付例)

オプションで ST#722B 特定小電力無線機操作ユニットを 2 段重ねで使用できる連結ブラケット (部品番号: PP10234) の用意があります。

これを使うと 2 台の無線機と 1 か所で通話できるようになります。

(ST#722B を 2 台つないで 3 者通話するには別途専用ケーブルが必要になります)



工場出荷状態一覧

| | | |
|----|---------------|---------|
| 1 | マニュアルモード | ON |
| 2 | トーン追従モード | OFF |
| 3 | エコー1：Nモード | OFF |
| 4 | 特殊トーンモード | OFF |
| 5 | K / S 設定モード | K |
| 6 | MCA モード | OFF |
| 7 | マイク感度変更設定 | 中 |
| 8 | キーロック受付時間変更設定 | 03 秒 |
| 9 | ヘッドセットテスト | OFF |
| 10 | 送信設定 | ソウシンキドウ |

その他

仕様

一般仕様

| | |
|--------------|--|
| 使用周波数..... | 440.0250MHz ~ 440.2500MHz 421.5750MHz ~ 421.8000MHz |
| 電波形式..... | F3E、F2D |
| 通信方式..... | 複信方式 |
| 電源電圧..... | DC 12 ~ 24V |
| 発振方式..... | 水晶発振により制御する周波数シンセサイザ方式 |
| アンテナ..... | ヘリカルアンテナ |
| 周波数切替方式..... | 手動切替または自動切替 |
| 使用温度範囲..... | -10°C ~ +50°C |
| 寸法..... | ST#722BA 幅 56mm 高さ 484mm 奥行き 56mm (突起物含まず) ST#722BC 幅 136mm 高さ 46mm 奥行き 80mm (突起物含まず) |
| 質量..... | ST#722BA 485g ST#722BC 615g |

送信仕様

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 送信出力..... | 1mW 以下 |
| 周波数の偏差..... | ± 4.0ppm 以下 |
| 占有周波数帯幅..... | 8.5kHz 以内 |
| スプリアス発射の強度..... | 2.5 μ W 以下 |
| 最大周波数偏移..... | ± 2.5kHz 以下 |
| 変調方式..... | 可変容量ダイオードによる直接周波数変調方式 |

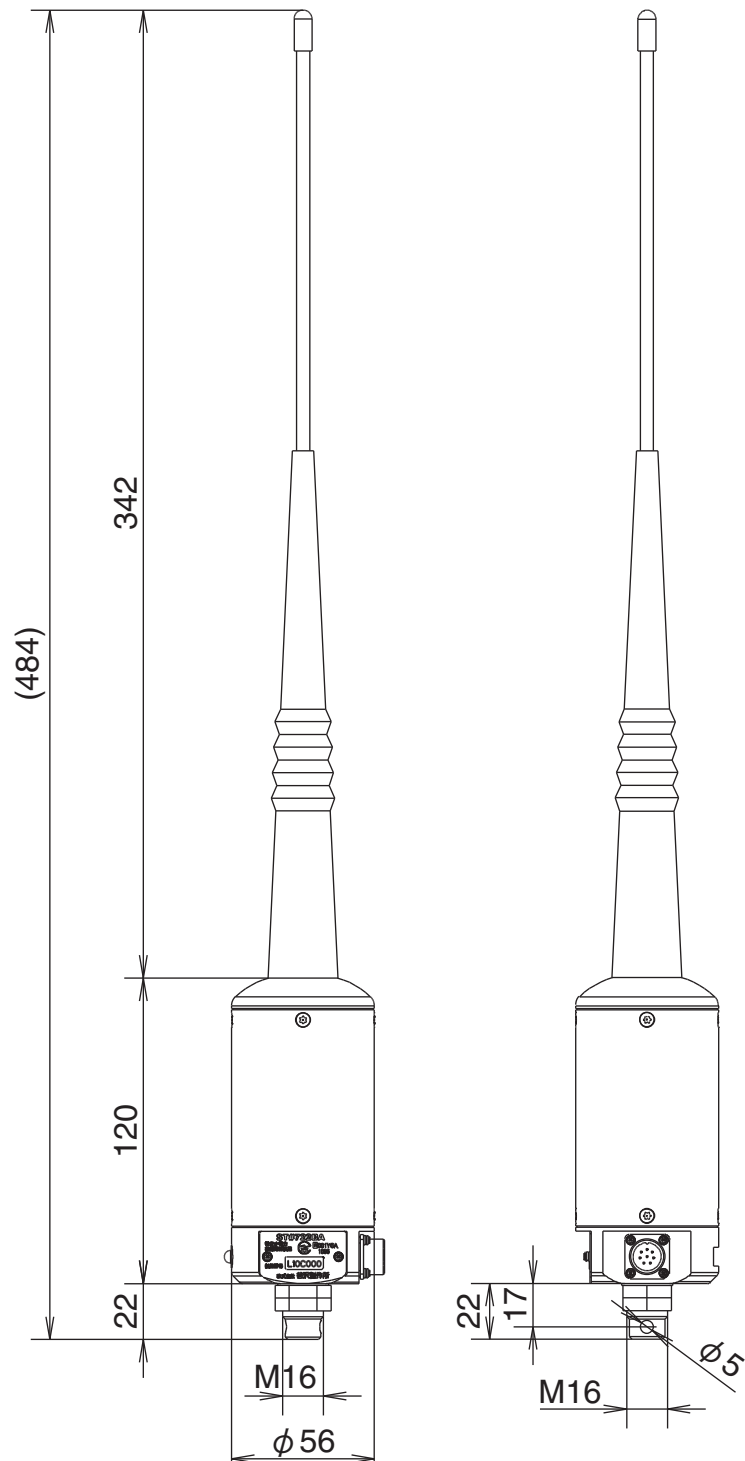
受信仕様

| | |
|--------------------|---|
| 受信方式..... | ダブルスーパーヘテロダイン方式 |
| 中間周波数..... | 21.7MHz (第1 中間周波数) 450kHz (第2 中間周波数) |
| 受信感度..... | -3dBu 以下 (12dB SINAD) |
| スケルチ感度..... | -9 ~ -3dBu 以下 |
| 低周波出力..... | 1.5W 以上 (8 Ω 負荷) |
| 副次的に発する電波等の限度..... | 4nW 以下 |

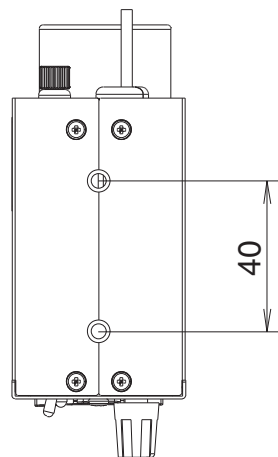
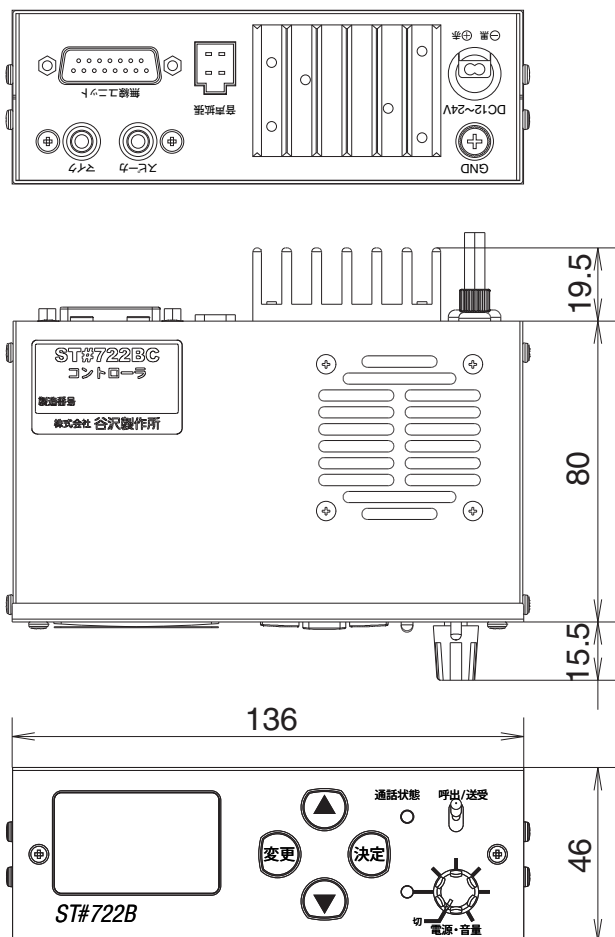
本機の仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがありますのでご了承ください。

外觀寸法図

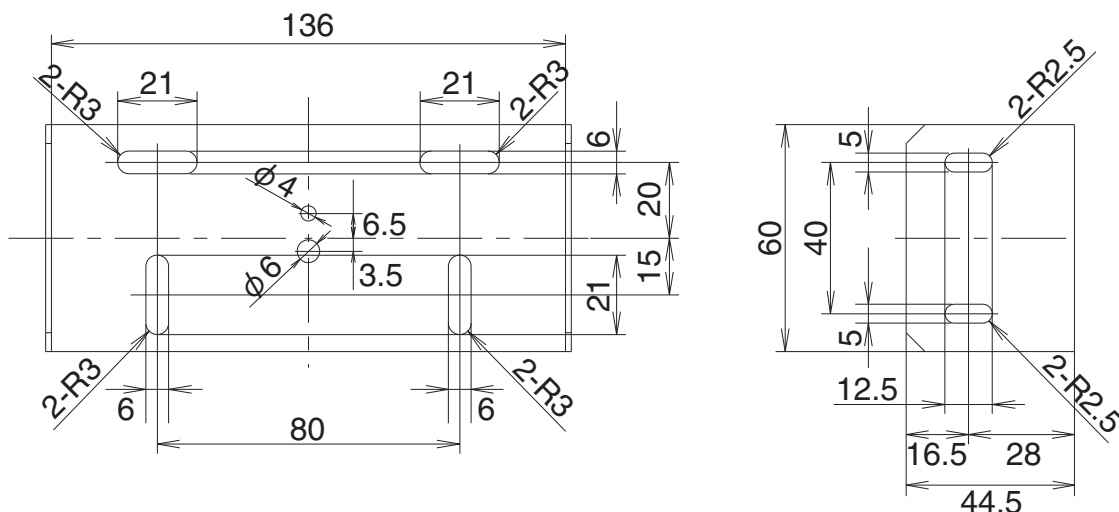
ST#722BA 特定小電力無線機



ST#722BC 特定小電力無線機操作ユニット









ST#722BC 用ブラケット



故障かな?と思ったら

無線機が正常に作動しない場合には、まず以下の内容をご確認ください。

| 症 状 | 確 認 | 処 置 |
|-----------------------|---|--|
| 電源が入らない。 | 特定小電力無線機操作ユニットはシガーライターソケットまたは電源と正しく接続されていますか？ | 接続を確認して正しく接続し直してください。 |
| | 特定小電力無線機操作ユニットと特定小電力無線機は正しく接続されていますか？ | 特定小電力無線機は特定小電力無線機操作ユニットより給電されて電源が入ります。特定小電力無線機と特定小電力無線機操作ユニットの接続を確認してください。 |
| 音声が聞こえない。 | 電源・音量ツマミが最小の位置になっていませんか？ | 電源・音量ツマミを最良の位置に合わせてください。 |
| | 外部スピーカが接続されていませんか？ | 外部スピーカが接続されている時は、内蔵スピーカから音は出ません。 |
| | 信号を受信している  の表示は出ていますか？ |  の表示が出ている場合、相手機とトーンが合っていない場合があります。本書の下記の設定をご覧のうえ、各トーンを合わせてください。 トーン追従モード(P.45) TX・RXトーンモード(P.49) MCAモードを設定する(P.35) |
| | 「圏外」が表示されていますか？ | 「圏外」の表示が出ている場合、相手機とチャンネルが違っている、または相手機との距離が離れ過ぎている場合があります。相手機とチャンネルを合わせるか、距離を近づけてみてください。 |
| 音声が途切れる。 | 「圏外」の表示が出たり、消えたりしていますか？ | 「圏外」の表示が出たり、消えたりする場合、相手機の信号が弱い場合があります。相手機と距離を近づけてみてください。 |
| 音声が小さい。 | 電源・音量ツマミが最適な位置になっていますか？ | 電源・音量ツマミを最良の位置に合わせてください。 |
| | 相手機のマイク感度は、正しく設定されていますか？ | 相手機のマイク感度が低く設定されている場合があります。「マイクの感度を変更する」(P.51)をご覧のうえ、相手機のマイク感度を正しく設定してください。 |
| 自分の声にエコーが掛かったように聞こえる。 | 相手機がエコー1:Nモードを設定していませんか？ | 相手機がエコー1:Nモードを設定している場合、エコーが掛かったように聞こえます。エコー1:Nモードの解除についてはP.48をご覧ください。 |

| 症 状 | 確認 | 処置 |
|----------------------------|---|--|
| 送信できない。 | 信号を受信している  (受信強度)の表示は出ていますか？ | 他の人が同じチャンネルを使用中です。  の表示が消えるのを待ってから送信してください。 |
| 相手呼び出すことができない。 | 「K」または「S」モードが正しく設定されていますか？ | 本機は「K」と「S」に設定された無線機が対になって使用されます。「K/Sの設定を変更する」(P.26)をご覧ください、「K」または「S」モードを正しく設定してください。 |
| | 相手機とトーンは合っていますか？ | 相手機とトーンが合っていない場合があります。本書の下記の設定をご覧ください、各トーンを合わせてください。 トーン追従モード (P.45) TX・RXトーンモード (P.49) MCAモードを設定する (P.35) |
| マニュアルモードのとき、相手呼び出すことができない。 | 相手機とチャンネルは合っていますか？ | 相手機とチャンネルを合わせてください。 |
| MCAモードのとき、相手呼び出すことができない。 | アイテ番号(相手機のジブン番号)は合っていますか？ | MCAモードでは、アイテ番号(相手機)を使って呼び出します。「アイテ番号を設定する」(P.37)をご覧ください、アイテ番号(相手機のジブン番号)を正しく設定してください。 |
| チャンネルや設定が変えられない。 |  が表示されていませんか？ |  が表示されている場合、キーロックされています。[変更] と [決定] ボタンを同時に押し、キーロックを解除してください。 |
| 親機同士で通話するとハウリングが起こる。 | 音量を下げてもハウリングが続きますか？ | 同時通話方式の無線機なので内蔵スピーカーを使わず、イヤホンを使ったり、咽喉マイクを使うなどして音声のまわり込みを防いでください。 |
| 電源を入れただけで送信する。 | 送信設定において「ソウシンキドウ」が設定されていませんか？ | 送信設定において「ソウシンキドウ」が設定されていると電源を入れるだけで送信が始まります。受信の設定に変更するには「ジュシンキドウ」に設定を変更してください。(P.54)工場出荷時設定は「ソウシンキドウ」になっています。 |

保証・アフターサービス(よくお読みください)

【保証書(別添)】

この製品には、保証書を(別途)添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

【修理に関する相談窓口】

修理に関するご相談ならびにご不明な点はお買い上げの販売店または弊社営業所へお問い合わせください。

【保証期間中は】

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って、修理させていただきます。製品と保証書をご持参ください。

【修理部品保有期間】

本機の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は製造打ち切り後5年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

【保証期間が過ぎているときは】

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

【修理を依頼されるときは】

この製品は持込修理とさせていただきます。修理をご依頼のときは、製品名、製造番号、お買い上げ日、故障の状況(できるだけ具体的に)、ご住所、お名前、電話番号をお知らせください。修理不能の場合でも、送料、検査料を頂戴する場合があります。

お願い

- 修理に出された場合、設定されたデータが消去される場合がありますので、別途お客様ご自身でお控えくださいようお願い致します。
- また、本機の故障、誤動作、不具合などによって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、株式会社谷沢製作所は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

株式会社 谷沢製作所 本社・営業部

〒104-0041 東京都中央区新富2-8-1 キンシビル

TEL. 03-3552-5581

<http://www.tanizawa.co.jp>

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

取扱説明書や製品に関するご質問は上記までお問い合わせください。また、業務用途以外でお使いのお客様が、製品に起因する死亡や重大な怪我に至る事故にあわれたときは、お手数ですが上記までご連絡ください。これは改正消費生活用製品安全法の報告義務規定によるものです。

お問い合わせは、販売店あるいは弊社営業所で承っております。

2014/10

E310-003